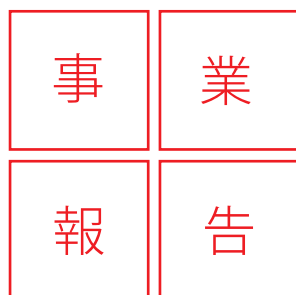


令和 3 年度



**A N N U A L
R E P O R T**

2021 April ▶ 2022 March

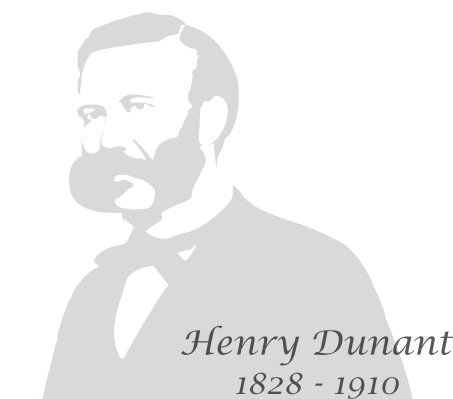
令和 3 年度



ANNUAL REPORT

2021 April ▶ 2022 March

PAGE	CONTENTS
1	Mission Statement
3	事務局長 Message
	事業報告
4	国内災害救護
16	救急法等の講習
18	国際活動
22	赤十字ボランティア
28	青少年赤十字
34	赤十字思想の普及・広報
38	会員（社員）・活動資金の募集
42	医療事業 / 血液事業 / 社会福祉事業 / 看護師養成
56	職員の人材育成
58	評議員会・役員
61	参考資料



アンリー・デュナンは、1859 年、イタリア戦争の激戦地で放置された4万人の死傷兵に遭遇します。

「傷ついた兵士はもはや兵士ではない。人間同士、尊い命は救わなければならない。」という信念に突き動かされ、村人たちと協力して、敵味方を区別せず負傷者を救護しました。この体験を「ソルフェリーノの思い出」という本にまとめ、

- ① 傷病者は敵味方の区別なく救護すること
- ② そのために平時から各国に救護団体を組織すること
- ③ この目的のために国際的な条約を締結しておくこと

これらの必要性を訴えました。この思想がヨーロッパ各国の反響を呼び、1864 年に戦争犠牲者の保護・救済のためのジュネーブ条約が調印され、国際赤十字が誕生しました。

※特に断りのないデータは令和4年3月31日時点

Mission Statement

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。

公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。

中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。

独立：国や他の救助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。

奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。

単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。

世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、

人道の実現のために、

利己心と闘い、無関心に陥ることなく、

人の痛みや苦しみに目を向け、

常に想像力をもって行動します。

事務局長 Message

平素より日本赤十字社東京都支部の事業に、格別のご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

東日本大震災から10年が過ぎました。令和3年度も大雨や土砂災害等、多数の自然災害が発生しました。発災直後から被災地へ医療救護班やこころのケア班の派遣を行ったほか、避難所等での感染対策にあたっては、赤十字ボランティアが活躍しました。

また、新型コロナウイルス感染症が収まらない中、救急法や防災セミナーのオンライン実施や感染対策に考慮したボランティア活動等、「新しい生活様式」に合わせた事業展開に努めました。

令和4年2月には、ウクライナに深刻な人道危機が勃発、現在も世界中に緊張が走っています。多くの死傷者に加えて、膨大な人々が住むところを追われ、国内外への避難を余儀なくされています。日赤も直ちに海外救援金の募集を開始し、皆さまから多額の寄付をお寄せいただいております。これらは、国際赤十字の機関を通じて、ウクライナ避難民へ物資や食料の支援、医薬品の提供など多岐にわたる活動に活用されております。

感染症の収束がまだまだ見通せない状況ですが、社会の厳しい変化に柔軟に対応しながら、地域の皆さまの期待と信頼に応えるために、「人々が支え合う、安全、安心な社会」の形成を目指し、ひたむきに、ジミチに職員一同全力で取り組んでまいります。

皆さまには、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社東京都支部

事務局長 中川原 米俊

令和3年度も日本全国で多くの自然災害が発生し、大きな被害が生じました。日本赤十字社は、災害発生直後から速やかに医療救護班や日赤災害医療コーディネートチーム等の救護要員を被災地へ派遣し医療救護活動を行いました。また、変わり続ける被災者のニーズに寄り添い、こころのケア、避難所の保健衛生・健康管理支援、救援物資の配布等、多岐に渡る救護活動をボランティアと一体となって実施しました。

他方、未だ収束の見通しがたたない新型コロナウイルス感染症に対しては、全国の赤十字病院で患者の受け入れを行ったほか、臨時医療施設やワクチン接種会場へ職員を派遣し、ひっ迫する地域医療提供体制を支えました。

令和3年度に発生した災害への対応

令和3年7月から8月にかけて広い範囲で記録的な大雨となり、静岡県熱海市で土石流が発生し大きな被害があったほか、中国地方や九州北部地方においては河川の氾濫や土砂災害が発生しました。

日本赤十字社は発災後すぐに医療救護班や、避難所等の医療ニーズの調査を行うための災害医療コーディネートチームを派遣しました。また、救援物資の搬送等では赤十字ボランティアが活躍しました。



避難所でのこころのケア



避難所への救援物資の配布

新型コロナウイルス感染症対応

日本赤十字社は国内での度重なる感染拡大に対し、総力を結集して対応に臨んでいます。

全国の赤十字病院では感染症患者を多数受け入れ、ひっ迫する地域の医療体制を支えるべく懸命に治療にあたっています。また、病床不足に対応するために設置された臨時医療・療養施設や、ワクチン接種会場へ延べ19,000人を超える職員を派遣しました。

都内の赤十字病院でもコロナ専用病床を設置し、地域の医療機関とも連携しながら職員が一丸となって治療や感染対策に取り組んでいます。



©Atsushi Shibuya/JRCS

コロナ病棟で勤務する看護師

東京 2020 大会での救護活動

1年の延期を経て無観客（首都圏会場）で開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、東京都等の要請に基づき、人出が予想された公道競技の沿道に救護所を設置し、救護活動を展開したほか、競技会場内で活動する医療スタッフとして、都内の赤十字病院から医師等を派遣しました。

活動にあたっては、感染予防に配慮した対策を講じるとともに、コース沿道では傷病者をいち早く発見・応急手当を行うため、AED等を装備したファーストレスポnderチームが巡回を行いました。



コース沿道へ設置した救護所
(パラリンピック：マラソン競技)



ファーストレスポnderチームによる巡回
(オリンピック：トライアスロン競技)

赤十字防災セミナー

防災・減災思想の普及を通じて災害時の被害軽減を図ることを目的として、自治会等の自主防災組織や法人、学校等に向けて実施している防災教育事業。

一人でも多くの皆さまに防災・減災に関する正しい知識と技術を普及するため、対面型での実施に限定せず、オンラインセミナーやWEB教材を活用しています。

令和3年度

開催実績

防災基礎 34 回開催

(うち、オンライン 23 回)、2,063 人が受講

地域共助 4 回開催

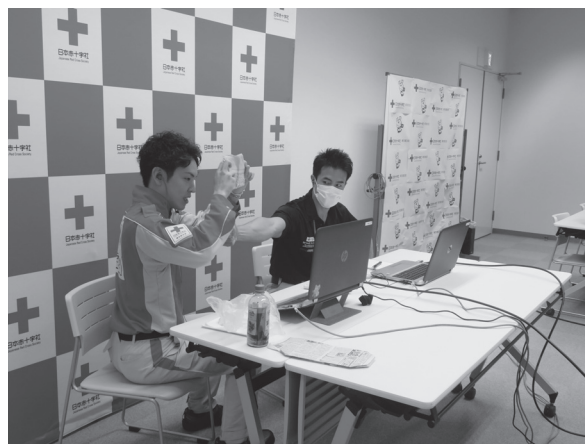
(うち、オンライン 1 回)、78 人が受講

学校防災 46 回開催

(うち、オンライン 46 回)、5,937 人が受講



地域における防災上の資源や危険箇所を確認する図上訓練



オンラインセミナー

◎ 防災教育事業指導者養成・育成のための研修

区分	実施日	内容	参加者
コミュニケーション研修	5/15	人前で話すときの心構えや伝わる話し方等の基本的な知識と技術を身につけるための研修	赤十字ボランティア 等 78 人
プレゼンテーション研修	2/19	受講者の自助・共助の備えを促進するため、指導者の説得力・プレゼンテーション能力を高めるための研修	赤十字ボランティア 等 52 人
防災教育事業指導者 支部指導者養成研修	3/8	市民の防災・減災に関する知識・意識・技術を普及向上し、地域において災害発生時の応急対応にあたるリーダー層を育成するためのファシリテーターを養成する研修	東京都支部 8 人

災害救護訓練

日本赤十字社は、国の指定公共機関として災害時の救護活動にあたる重要な役割を担っています。
ブロック内の支部や管内医療施設との合同訓練を実施し、医療救護班を構成する救護要員の養成、強化を図るほか、東京都や他機関が開催する訓練に参加し、相互連携を強め、救護活動の総合力の向上にも力を注いでいます。

● 救護員養成のための訓練・研修

区分	実施日	内容	参加者
災害救護基礎研修	中止	救護に関する講義・実技を通して救護要員の基礎的知識・技能を習得する研修	—
災害救護技能別研修 (こころのケア)	中止	日本赤十字社のこころのケアの仕組みと救護員の役割を理解し、災害時に活動できるこころのケア要員を養成する研修	—
緊急自動車講習 (警視庁交通安全教育センター)	4/15、9/16、10/21、 12/16、1/20	緊急走行に必要な知識と技術を習得するための講習	管内赤十字医療施設 2人 東京都支部 8人
支部災害対応総合訓練	5/17、5/19、2/22	被災地支部の本部設置、運営訓練及び大規模災害時に被災地に派遣される要員の救護対応能力向上のための訓練	東京都支部 第1部 26人 第2部 50人 第3部 43人
一般緊急自動車運転技能者 課程 (自動車安全運転センター安全 運転中央研修所)	9/13～16	緊急自動車の安全運転に必要な知識のほか、緊急走行時に必要な知識と技術を身に付けるための講習	管内赤十字医療施設 1人 東京都支部 1人
緊急車両実地走行訓練 (公益財団法人献血供給事業団)	1/14	緊急走行時の留意事項やマイクによる広報を体験し、走行技術・知識の向上を図るための訓練	東京都支部 2人
災害救護技能別研修 (情報・通信研修)	中止	緊急自動車の安全運転に必要な知識のほか、緊急走行時に必要な知識と技術を身に付けるための講習	—
こころのケア 指導者フォローアップ研修	中止	こころのケア指導者を対象に、各施設でこころのケア研修の実施状況等の共有を行い、新興感染症まん延下のこころのケア活動の留意事項を理解し、指導者としての実践能力向上を図るための研修	—
こころのケア研修	(各施設で実施)	日本赤十字社のこころのケアの仕組みと救護員の役割を理解し、災害時に活動できるこころのケア要員を養成する研修	管内赤十字医療施設 92人
救護員としての赤十字 看護師研修	(各施設で実施)	災害時に看護専門職としての知識、技術、態度を有し、的確に判断し行動できる「赤十字看護師」を登録するための研修	管内赤十字医療施設 128人

<< 医療救護班編成状況 >>

■ 武蔵野赤十字病院	・・・	13 班
■ 大森赤十字病院	・・・	5 班
■ 東京かつしか赤十字 母子医療センター	・・・	2 班
■ 日赤医療センター ※本社直轄施設	・・・	12 班

合計 **32** 班

救護班の標準編成	
医師	1 人
看護師長	1 人
看護師（または保健師 / 助産師）	2 人
主事（事務管理要員）	2 人

※必要に応じて薬剤師、臨床心理士
等を編成に加える。 合計 **6 人**

※血液救護班

災害時に輸血用血液を医療機関に供給する救護班を都内の
血液センターに 3 班編成しています。

● 本社や第 2 ブロック支部における訓練・研修

区分	実施日	内容	参加者
全国赤十字救護班研修	中止	日赤救護班の初動活動の強化と技術の向上を目的とした研修	—
日本赤十字社災害医療 コーディネート研修	中止	災害医療コーディネーションのための知識習得及びコーディネート活動に対する考え方の共通認識醸成を目的とした研修	—
防災教育事業指導者 本社指導者養成研修	8/21、22 9/28、29	市民の防災・減災への知識・意識・技術を普及向上し、地域で災害発生時の応急対応にあたるリーダー層を育成するためのファシリテーターを養成する研修	東京都支部 2 人
防災教育事業主任指導者 研修	9/10	防災教育事業の円滑な運営のため、指導者への技術的助言、指導者の養成、フォローアップにかかる研修の企画・運営、等ができる要員を養成するための研修	東京都支部 2 人
第 2 ブロック支部総合訓練 (栃木県支部担当)	11/20	災害時の第 2 ブロック支部管内における広域支援活動を円滑に行い、統率のとれた災害救護活動を実践するための訓練	管内赤十字医療施設 7 人 東京都支部 8 人
第 2 ブロック被災地支部 災害対策本部運営訓練 (神奈川県支部担当)	中止	被災地支部の本部設置、運営訓練及び第 2 ブロック支部から被災地支部の災対本部に派遣する要員を対象とする本部設置、運営訓練	—
第 2 ブロック支部先遣要員 訓練 (千葉県支部担当)	1/26 (学科) ※実技は中止	災害時に被害状況等のアセスメント調査のため迅速に現地に派遣する要員を養成するための訓練	東京都支部 19 人
日赤災害医療コーディネート フォローアップ研修会	3/13	日赤災害医療コーディネートチームの活動について、過去の活動事例から、更なる活動能力向上及び活動に対する考え方の共通認識を図るための研修	管内赤十字施設 13 人 東京都支部 10 人

● 東京都が実施する訓練および防災関係機関との連携を目的とした訓練等

区分	実施日	内容	参加者
東京都・東村山市合同総合防災訓練	中止	自治体及び地域並びに各防災関係機関の相互連携の強化を図り、地域防災力の向上を目的とした訓練	—
国士舘大学 & 日赤東京都支部合同訓練	中止	国士舘大学との防災に関する協定に基づき、学生ボランティア及び地域住民並びに赤十字医療救護班・赤十字防災ボランティアが連携した合同訓練	—
東京都高圧ガス防災訓練	10/13	東京都環境局が高圧ガス取扱事業所に対し実施し、赤十字防災ボランティアが運営に協力する訓練	東京都支部 1人 赤十字ボランティア 6人
日本災害医学会総会・学術集会 (日本災害医学会)	3/3～5	災害医療や防災業務に携わる組織や個人が参加する学会	東京都支部 4人



災害救護基礎研修



災害用資機材の取扱いを習得

● 地区・分区の災害救援用資材配備状況

※現保有数は新規整備数を含む

	災害救護用車両		電動アシスト付自転車		6本柱テント		4本柱テント	
	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備
千代田区								
中央区	1台		1台					
港区								
新宿区			1台		12張		8張	
文京区	1台		2台	1台	1張			
台東区					19張		8張	
墨田区	1台				11張		13張	
江東区					4張			
品川区	1台		1台		5張		7張	
目黒区			1台		10張		1張	
大田区					39張		21張	
世田谷区	1台		1台		22張		15張	
渋谷区					12張	1張	7張	
中野区	1台		1台		17張		12張	
杉並区	1台						2張	
豊島区					7張		7張	1張
北区	1台				30張		20張	
荒川区			1台					
板橋区					23張	1張	11張	
練馬区	1台				8張		2張	
足立区	1台		2台	1台	15張		13張	
葛飾区	1台				27張		10張	2張
江戸川区	1台		1台	1台	2張		10張	
小 計	12台	0台	12台	3台	264張	2張	167張	3張
八王子市	1台				27張		9張	
立川市	2台				23張	1張		
武蔵野市					13張		3張	
三鷹市	1台				17張		6張	
青梅市	1台				12張			
府中市			1台		19張			
昭島市	1台		1台		12張		18張	
調布市	2台				11張		3張	
町田市	1台	1台			18張		5張	
小金井市					4張		1張	
小平市	1台		2台	1台	9張		7張	
日野市	1台						1張	
東村山市	1台				6張	1張		
国分寺市	1台		1台		8張		5張	
国立市	1台				4張		3張	
福生市	2台				8張			
狛江市	1台				14張		2張	
東大和市	1台				3張		3張	
清瀬市			2台	1台	5張			
東久留米市	1台		1台				1張	
武蔵村山市	2台				20張		29張	
多摩市	1台				15張		1張	
稲城市	1台				31張			
羽村市	2台		1台		39張		7張	
あきる野市	2台				26張		4張	
西東京市	2台				10張		1張	
小 計	29台	1台	9台	2台	354張	2張	109張	0張
西多摩	3台				34張	1張	15張	
大島	7台				13張		6張	
三宅	4台				2張		3張	1張
八丈	2台				5張		3張	
小笠原	3台				11張			
小 計	19台	0台	0台	0台	65張	1張	27張	1張
合 計	60台	1台	21台	5台	683張	5張	303張	4張

	炊出し用釜		ひなんルーム		プライベートルーム		発動発電機	
	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備
千代田区								
中央区	5 個							
港区								
新宿区	1 個		2 張	2 張			1 台	1 台
文京区	4 個							
台東区	18 個				11 張	10 張	1 台	
墨田区			260 張	100 張				
江東区	5 個		73 張					
品川区					18 張	18 張	1 台	
目黒区	10 個				1 張	1 張	1 台	
大田区	44 個		348 張		17 張	16 張		
世田谷区	2 個		7 張		1 張		1 台	1 台
渋谷区	14 個							
中野区	16 個		74 張		19 張	18 張		
杉並区			1 張		7 張	7 張		
豊島区					1 張			
北区	27 個		30 張		20 張	19 張		
荒川区			37 張					
板橋区	3 個							
練馬区								
足立区	16 個				1 張		1 台	
葛飾区	19 個		19 張		6 張	5 張	1 台	1 台
江戸川区	17 個	1 個			2 張	2 張		
小 計	201 個	1 個	851 張	102 張	104 張	96 張	7 台	3 台
八王子市	18 個	1 個					1 台	
立川市								
武蔵野市	4 個	2 個			2 張			
三鷹市	29 個							
青梅市	10 個							
府中市	16 個				34 張	21 張	1 台	
昭島市	2 個						1 台	1 台
調布市	36 個						2 台	
町田市	11 個		1 張		1 張			
小金井市	3 個		20 張		14 張	9 張	1 台	
小平市	2 個				2 張			
日野市	1 個				15 張	15 張		
東村山市					11 張	11 張		
国分寺市	6 個		3 張	3 張	1 張			
国立市	11 個		44 張		1 張		1 台	
福生市	12 個				4 張			
狛江市	21 個				13 張			
東大和市	12 個		116 張		12 張			
清瀬市			28 張		1 張		1 台	
東久留米市	3 個						1 台	1 台
武蔵村山市	22 個		13 張	13 張	13 張	13 張	1 台	
多摩市	13 個				9 張	8 張	1 台	
稲城市	24 個		80 張	20 張				
羽村市	10 個		24 張	12 張	10 張	9 張		
あきる野市	5 個						1 台	
西東京市	6 個		20 張		1 張			
小 計	277 個	3 個	349 張	48 張	144 張	86 張	12 台	2 台
西多摩	21 個		20 張		14 張		6 台	1 台
大島	16 個		60 張		45 張	45 張	1 台	
三宅	7 個		4 張					
八丈	12 個		184 張		10 張			
小笠原	4 個				5 張	5 張		
小 計	60 個	0 個	268 張	0 張	74 張	50 張	7 台	1 台
合 計	538 個	4 個	1,468 張	150 張	322 張	232 張	26 台	6 台

	LED投光器		エアーストレッチャー		ワンマンストレッチャー		ポータブルトイレ	
	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備	現保有数	令和3年 新規整備
千代田区			1台					
中央区	1台	1台	2台					
港区								
新宿区	1台		1台		1台	1台	11台	
文京区								
台東区			1台		1台		2台	
墨田区	1台							
江東区								
品川区					1台	1台	11台	
目黒区								
大田区			1台		1台	1台	18台	
世田谷区			1台		1台	1台	3台	2台
渋谷区							1台	
中野区					2台	1台	10台	
杉並区	1台							
豊島区					3台			
北区			1台		1台	1台	12台	
荒川区			8台	8台				
板橋区								
練馬区	1台	1台						
足立区	1台							
葛飾区			1台		17台		6台	
江戸川区	2台							
小 計	8台	2台	17台	8台	28台	6台	74台	2台
八王子市					1台	1台	2台	
立川市								
武蔵野市					1台	1台		
三鷹市	1台							
青梅市								
府中市	1台				1台	1台		
昭島市	1台	1台						
調布市	1台		2台					
町田市					1台		1台	
小金井市							2台	
小平市					3台	1台		
日野市							6台	6台
東村山市								
国分寺市	2台							
国立市	2台	1台					1台	
福生市	1台							
狛江市	1台	1台	1台					
東大和市	1台	1台						
清瀬市	1台							
東久留米市								
武蔵村山市	1台							
多摩市			1台		2台	1台	7台	
稲城市								
羽村市					1台		2台	
あきる野市	2台							
西東京市	1台				2台	1台	7台	
小 計	16台	4台	4台	0台	12台	6台	28台	6台
西多摩	3台	1台						
大島	4台		1台		1台		9台	9台
三宅								
八丈			1台				5台	
小笠原								
小 計	7台	1台	2台	0台	1台	0台	14台	9台
合 計	31台	7台	23台	8台	41台	12台	116台	17台

● 地区・分区との連携強化の取組み

災害時の連携強化及び地区・分区における防災セミナー等赤十字事業の更なる推進のため、令和３年度から各地区・分区を訪問し、互いに顔の見える関係性を構築する「事業部門打ち合わせ」を開始しました。令和３年度は計 19 地区を訪問し、令和５年度までの３か年で都内全地区・分区を訪問する予定としています。

実施日	訪問地区	備考
5/18	立川市	
5/18	多摩市	
6/8	足立区	
6/15	渋谷区	
7/7	日野市	
7/7	国立市	
8/11	清瀬市	
9/21	西東京市	
9/22	文京区	
9/22	練馬区	
10/25	世田谷区	
10/25	狛江市	
11/16	昭島市	
12/07	中央区	
12/28	調布市	
1/19	武蔵野市	
1/19	三鷹市	
2/1	葛飾区	
2/3	大島	オンライン開催

● 救援物資備蓄状況

	前年度繰越数	R3 受入数	R3 払出数	繰越数
毛 布	36,210	0	392	35,818
バスタオル	11,351	0	178	11,173
安眠セット	5,608	0	54	5,554
緊急セット	10,254	13	0	10,267
安眠マット	5,610	130	0	5,740
ブルーシート	1,720	0	0	1,720
タオルケット	1,990	0	20	1,970

● 救護ボランティア

東京都赤十字救護ボランティア活動推進協議会が中心となり、職員とともに被災地に赴き活動するほか、救援物資の搬出や義援金の受付等、後方支援業務においても活動を展開しています。
東京都支部は、平成3年度から赤十字災害救護セミナーを通してボランティアの養成を行っています。
令和3年度はコロナ禍により活動が制限される中、以下の活動を行いました。

◆ 赤十字災害救護セミナー

救護ボランティアの養成を目的に、活動するうえで必要となる基礎的な知識と技術の習得を内容としたセミナーを開催しています。

令和3年度

中止

◆ ステップアップセミナー

救護ボランティアとして登録された方を対象に、救護に関する技能維持や能力向上のためのセミナーを開催しています。

＜主な内容＞

ロープワーク、役立つ結索法

令和3年度

1回実施
(6回予定)

◆ フォローアップ教育

災害救護セミナーで身につけた技能維持のためのフォローアップを行っています。

＜主な内容＞

ロープワーク、無線と資機材組立、災害救護シミュレーション、炊出し等

◆ 災害救護講座

防災や災害救護に関する講義を通じ、災害対応能力の向上や新たな知見を得る機会としています。

＜主な内容＞

「気象のメカニズムと情報について」「手話講習」「地域包括ケア」

「インターネットと人権」「防災・減災への備え」

令和3年度

5回実施

● 臨時救護の実施

公共性の高いイベント等において、救護班や東京都看護赤十字奉仕団員を派遣して臨時救護所を設置し、傷病者の発生に備えています。

令和3年度
実施件数

24回

活動日数

43日

取扱者数

37人

班数

56班

派遣人数

193人

● 赤十字エイドステーション（帰宅困難者支援所）

首都直下地震等の大規模災害時、職場や学校等から徒歩で帰宅する際に支援を行うためのエイドステーションを設置しています。

設置場所	隣接道路	設置年月
調 布 駅 北 口	旧 甲 州 街 道	平成 14 年 1 月
立 川 市 砂 川 町	五 日 市 街 道	平成 15 年 11 月
府 中 市 白 糸 台	甲 州 街 道	平成 15 年 12 月
西 東 京 市 田 無 神 社	青 梅 街 道	平成 17 年 3 月
狛 江 市 和 泉 多 摩 川	世 田 谷 通 り	平成 18 年 3 月
八 王 子 市 保 健 所	甲 州 街 道	平成 20 年 3 月

● 令和 3 年度義援金受付状況 ※令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日 支部着金分

国内災害義援金名称	件数	金額
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	4 件	8,929 円
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	7 件	1,166,251 円
令和 3 年 2 月福島県沖地震災害義援金	2 件	50,205 円
令和 3 年島根県松江市大規模火災義援金	2 件	2,031 円
令和 3 年 7 月大雨災害義援金	15 件	732,157 円
令和 3 年台風第 9 号等大雨災害義援金	5 件	140,558 円
令和 3 年 8 月大雨災害義援金	13 件	762,508 円
令和 3 年長野県茅野市土石流災害義援金	5 件	12,828 円
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	1 件	5,000 円
	計 54 件	2,880,467 円

2

救急法等の講習

SAFETY SERVICES

新型コロナウイルス感染症のまん延により人と人との接触が大きく制限される中、「いのちと健康を守る」ための知識と技術を一人でも多くの方へ届けるため、昨年度導入したオンライン講習を活用し社会情勢に合わせた講習普及に努めました。

オンライン講習の継続実施

WEB 会議ツールを活用したオンライン講習は、自宅や会社・学校等から誰でも気軽に受講できることから、対面での講習に参加が難しい方にも、応急手当等の知識と技術を身につけていただく機会となりました。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたっては、大会組織委員会等からの依頼により、3,200 人以上の関係者やボランティアに対し、一次救命処置と AED の使い方等に関する講習を行いました。

【オンライン講習実施実績（実施回数・受講者数）】

救急法短期講習	152 回	17,097 人
水上安全法短期講習	12 回	1,922 人
幼児安全法短期講習	48 回	1,846 人
健康生活支援講習短期講習	13 回	571 人



オンラインによる講習普及

感染対策に配慮した講習

コロナ禍においても「人と関わる仕事だからこそ学びたい」という企業や団体からのニーズに応えるべく、受講者同士の距離を保つ、受講者一人につき一体の人形を使用する等、感染予防・対策に配慮して対面講習にも取り組みました。



ソーシャルディスタンスを保って受講

水の事故防止動画の作成 <水上安全法>

河川等の自然水域での事故防止の普及のため、ライフジャケットの重要性や万が一流されてしまった場合の対処法等を紹介する啓発動画を作成しました。動画は東京都支部公式サイトや SNS で公開したほか、今後は講習の教材としても活用していきます。



河川で事故防止の動画を撮影し、SNS で公開

地域包括ケアシステム構築への取組み <健康生活支援講習>

地域での助け合い・支え合いの仕組みである地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みとして、UR 都市機構の3つの賃貸住宅団地にて、出張献血と健康生活支援講習を行いました。地域赤十字奉仕団にも協力いただき、ホットタオルの作り方やリラクゼーション等のプログラムを体験いただきました。



背中をさするリラクゼーションを体験

指導員の養成

救急法等講習の普及体制の充実を目的として、各講習の指導員養成を実施しています。令和3年度は、2年ぶりとなる救急法の指導員養成講習を実施し、新たに17人を指導員として認定しました。

また、ボランティア指導員との情報共有や研修を重ね、「post コロナ」の本格的な講習再開に向けて準備を進めています。

● 講習実施状況

救急法	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
基礎講習	15回	210人	10回	126人	110回	3,128人
救急員養成講習	10回	168人	6回	90人	52回	1,568人
短期講習（対面）	21回	623人	22回	1,131人	130回	5,046人
短期講習（オンライン）	152回	17,097人	71回	4,281人	0回	0人
合計	198回	18,098人	109回	5,628人	292回	9,742人

水上安全法	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
救助員Ⅰ養成講習	0回	0人	0回	0人	8回	148人
短期講習（対面）	2回	21人	0回	0人	38回	4,942人
短期講習（オンライン）	12回	1,922人	4回	354人	0回	0人
合計	14回	1,943人	4回	354人	46回	5,090人

幼児安全法	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
支援員養成講習	1回	14人	0回	0人	18回	390人
短期講習（対面）	12回	210人	20回	197人	83回	2,267人
短期講習（オンライン）	48回	1,846人	17回	585人	0回	0人
合計	61回	2,070人	37回	782人	101回	2,657人

健康生活支援講習	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
支援員養成講習	1回	25人	0回	0人	15回	143人
短期講習（対面）	7回	164人	3回	63人	61回	1,606人
短期講習（オンライン）	13回	571人	17回	391人	0回	0人
合計	21回	760人	20回	454人	76回	1,749人

3

国際活動

INTERNATIONAL ACTIVITIES

紛争やテロ組織等による非人道的な行為、突如として発生する大規模な災害、そして疾病や貧困など。世界には私たちの想像を超える苦しみを抱えながら生きる人々が存在しています。赤十字は 150 年を超える歴史に裏付けられる経験と 192 の国と地域に広がるネットワークを活用して、幅広い国際支援活動を展開しています。

国際派遣

令和 3 年度は、東京都支部管内の赤十字医療施設から 2 名の職員を国際救援活動へ派遣しました。

2011 年に始まった紛争が現在も続いているナイジェリアへ派遣された武蔵野赤十字病院の朝倉裕貴看護師は、4 月から 10 月まで 6 か月間、ICRC（赤十字国際委員会）外科チームの指導看護師として、現地の看護師の教育や指導を行うとともに、病棟や手術室で看護活動に従事しました。

また、大森赤十字病院の青山寿美香薬剤師は 3 月からレバノン共和国へ派遣され、8 月までの 5 か月間事業管理業務に従事する予定です。

事業名	派遣先	所属施設	職種	氏名
ICRC ナイジェリア紛争犠牲者支援事業	ナイジェリア連邦共和国 マイドゥグリ	武蔵野赤十字病院	看護師	朝倉 裕貴
パレスチナ赤新月社医療支援事業（二国間）	レバノン共和国 バイルート等	大森赤十字病院	薬剤師	青山 寿美香



現地スタッフと朝倉看護師



地雷により負傷した少年の治療に寄り添う

災害や紛争、飢餓や病気等で苦しむ人々を救うため、毎年 12 月に NHK と共働で実施している募金キャンペーンです。

皆さまからのあたたかいご支援は、紛争に伴う避難民への対応や、頻発する台風、サイクロン、干ばつ、洪水といった自然災害への対応、新型コロナウイルス感染症を含む疾病リスクへの対応等に役立てられます。

令和 3 年度募集総額

720,882,194 円

◆東京都の募集実績

受付場所	件数	受付額
東京都支部・管内施設	235	501,870 円
NHK 放送センター、NHK 各事業所	112	1,291,554 円
地方銀行	4	709,796 円
農協・漁協	1	110,000 円
合計	352	2,613,220 円

◆支援状況

支援	割合
紛争＋感染症に立ち向かうための取組み	31.0%
災害＋感染症に立ち向かうための取組み	26.5%
人々のレジリエンスを強化するための取組み	36.5%
NHK 海外たすけあい募集資料等作製費	6.0%

海外救援金

日本赤十字社に寄せられる海外救援金は、国際赤十字・赤新月社連盟や現地の姉妹社を通じて紛争や災害で苦しむ人々の支援に使われます。

令和3年度に受け付けた海外救援金

※令和3年4月1日～令和4年3月31日支部着金分

海外救援金	件数	金額
中東人道危機救援金	4件	33,398円
バングラデシュ南部避難民救援金	6件	56,605円
2021年ハイチ地震救援金	7件	118,112円
アフガニスタン人道危機救援金	7件	131,621円
トンガ大洋州噴火津波救援金	13件	167,902円
ウクライナ人道危機救援金	89件	25,076,515円
計	126件	25,584,153円

ウクライナ人道危機に対する赤十字の対応

ウクライナ各地で激化している紛争により、子どもを含む市民の死傷者が報告され、多くの人びとが、周辺国（ポーランド、ルーマニア、スロヴァキア等）に避難しています。

こうした状況を受け、日本赤十字社は現地へ職員を派遣したほか、国際赤十字が実施するウクライナ及び周辺国における救援活動（食料、水、医療、こころのケア、安否調査、避難所、生計支援等）を支援するための救援金を募集しています。また、武力紛争（戦争）によって弱い立場のすべての人を守るための世界共通のルールである国際人道法の普及にも取り組んでいます。

赤十字は、人間のいのちと健康、尊厳を守るため、いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先する「公平」、かつ一切の争いには参加しない「中立」の立場を維持して活動を行っています。



ウクライナから避難してきた人に保健医療支援を実施する
ハンガリー赤十字社のボランティア



ウクライナから避難してきた人々に国境沿いで
食料や衛生物資等を配付するボランティア

安否調査

ジュネーブ条約に基づき、紛争や国交がないなどの事情で連絡が取れない家族間の交信や、行方不明者の所在確認を関係機関と協力して行っています。

令和3年度調査依頼数

安否判明	安否不明	調査中	他支部へ追跡依頼	合計
0 件	0 件	0 件	—	0 件

4

赤十字ボランティア

RED CROSS VOLUNTEERS

新型コロナウイルス感染症のまん延により、ボランティア活動も制約を受ける中で、感染防止に努めながら、災害時に備えた活動、地域の清掃活動等、地域のニーズに合わせた活動を行いました。

● 赤十字クリーンプロジェクト

赤十字ボランティアの地域連携を目的に、地域イベント等に合わせて清掃活動を行いました。

参加者

実施奉仕団 1 団
実施回数 延べ 7 回
参加者 延べ 57 名



奉仕団員による清掃活動

● 災害時携帯トイレの普及

災害時に水分摂取を控えること等により発生する災害関連死を防ぐため、非常用携帯トイレの作成を通じて、災害時のトイレについての知識の普及を図りました。

参加者

実施奉仕団 4 団
実施回数 延べ 4 回
参加者 延べ 61 名

● コンタクトレンズケース回収リサイクル

コロナ禍においても各家庭や地域で取り組むことのできる活動として、使用済みコンタクトレンズケースを回収しました。回収したケースは、コンタクトレンズ販売店を通じてリサイクルされます。

回収量 約 40.0 kg

● 地域赤十字奉仕団

地区名	団員数
中央区	137
港区	434
新宿区	750
文京区	495
台東区	171
品川区	2,832
目黒区	620
大田区	2,352
世田谷区	1,661
渋谷区	339
中野区	1,422
杉並区	48
北区	1,446
荒川区	1,852
練馬区	1,770
足立区	141
葛飾区	320
江戸川区	390
八王子市	210

地区名	団員数
立川市	127
武蔵野市	555
三鷹市	149
府中市	156
昭島市	131
調布市	92
町田市	102
小金井市	33
日野市	143
国分寺市	19
国立市	80
狛江市	29
東久留米市	34
多摩市	76
稲城市	38
あきる野市	40
西東京市	58
大島町	550
八丈町	119

合計 38 団 19,921 人

◆ 赤十字奉仕団東京都支部委員会の活動

赤十字奉仕団東京都支部委員会

	開催日	会場	参加人数	内 容
第 1 回	5 月 7 日	資料 送付	委員 245 人及び 各地区事務局に資料送付	1 令和 3 年度東京都支部事業計画 2 令和 3 年度奉仕団関係行事予定について 3 令和 3 年度赤十字活動資金募集計画について 4 赤十字奉仕団だより「わたしたちのとうきょう」
第 2 回	1 月 14 日	資料 送付	委員 226 人及び 各地区事務局に資料送付	1 令和 3 年度主な奉仕団事業報告について 2 令和 4 年度奉仕団関係行事予定（案）について

赤十字奉仕団東京都支部委員会役員会・地域奉仕団委員長会議

	開催日	会場	参加人数	内 容
第 1 回	4 月 15 日	文書 審議	役員 12 人により文書審議	令和 3 年度役員改選について
第 2 回	11 月 19 日	支部	委員長 12 人 委員会役員 10 人 事務局職員 6 人	1 令和 3 年度主な奉仕団事業報告について 2 令和 4 年度奉仕団関係行事予定（案）について 3 救急法等講習普及事業について 4 赤十字活動資金について

日本赤十字社第2ブロック赤十字奉仕団委員長・担当課長会議（新潟県支部当番）

開催日	会場	参加者
11月26日	オンライン	赤十字奉仕団東京都支部委員会 常任委員 1人 東京都支部青少年・ボランティア課長

赤十字奉仕団中央委員会（本社主催）

開催日	会場	参加者
5月28日	オンライン	東京都支部青少年・ボランティア課 担当職員

特殊奉仕団委員長会議

開催日	会場	参加人数	内 容
2月25日	資料 送付	奉仕団委員長 18人に資料送付	1 年度末・年度当初の事務手続きについて 2 令和3年度奉仕団事業の報告について 3 令和4年度事業計画について

◆研修会・講習会

健康生活支援講習短期講習

	開催日	会 場	参加者数	内 容
第1回	3月22日	東京都支部	26人	・認知症予防 ・感染予防の知識
第2回	3月22日		35人	・災害に備えて
第3回	3月23日		28人	・認知症予防 ・感染予防の知識
第4回	3月23日		25人	・災害に備えて
第5回	3月24日		13人	・認知症予防 ・感染予防の知識
第6回	3月24日		11人	・災害に備えて



感染対策をしながら認知症予防プログラムに参加

● 青年学生赤十字奉仕団

奉仕団名	団員数
跡見学園女子大学学生赤十字奉仕団	7 人
駒澤大学学生赤十字奉仕団	77 人
十文字学園女子大学学生赤十字奉仕団	25 人
大東文化大学学生赤十字奉仕団	41 人
拓殖大学ライフセイバーズ学生赤十字奉仕団	29 人
玉川大学学生赤十字奉仕団	37 人
中央大学学生赤十字奉仕団	1 人
東京家政大学学生赤十字奉仕団	51 人

奉仕団名	団員数
東京理科大学学生赤十字奉仕団	35 人
日本赤十字看護大学学生赤十字奉仕団	115 人
日本大学学生赤十字奉仕団	159 人
日本薬科大学学生赤十字奉仕団	5 人
明治大学学生赤十字奉仕団	80 人
早稲田大学学生赤十字奉仕団	1 人
東京都青年赤十字奉仕団	64 人

合計 15 団 727 人

◆ 青年学生赤十字奉仕団の活動

青年学生赤十字奉仕団協議会運営委員会

	開催日	会場	参加人数	内 容
第 1 回	4 月 27 日	オンライン	協議会役員 3 人 奉仕団役員 29 人	・ 自己紹介 ・ 活動報告 ・ グループディスカッション「感染症流行下における団員のモチベーション低下について」 ・ 事務連絡
第 2 回	8 月 3 日		協議会役員 3 人 奉仕団役員 25 人	・ 活動分析 ・ グループディスカッション「協議会主催セミナーについて」 ・ 活動のオープン化について ・ 事務連絡
第 3 回	10 月 22 日		協議会役員 3 人 奉仕団役員 23 人	・ 活動分析 ・ グループワーク「他団の活動を知る」 ・ 事務連絡
総 会	12 月 8 日		協議会役員 2 人 奉仕団役員 26 人	・ 役員改選 ・ 活動分析 ・ グループワーク「今年度の振り返り」 ・ 事務連絡

青年学生赤十字奉仕団協議会主催研修会

開催日	会 場	内 容
6 月 9 日	オンライン	赤十字基礎セミナー
6 月 16 日		赤十字基礎セミナー
7 月 7 日		救急法短期講習
8 月 28 日		青年学生赤十字奉仕団員交流会
11 月 10 日		手話研修会

プロジェクトチームの活動

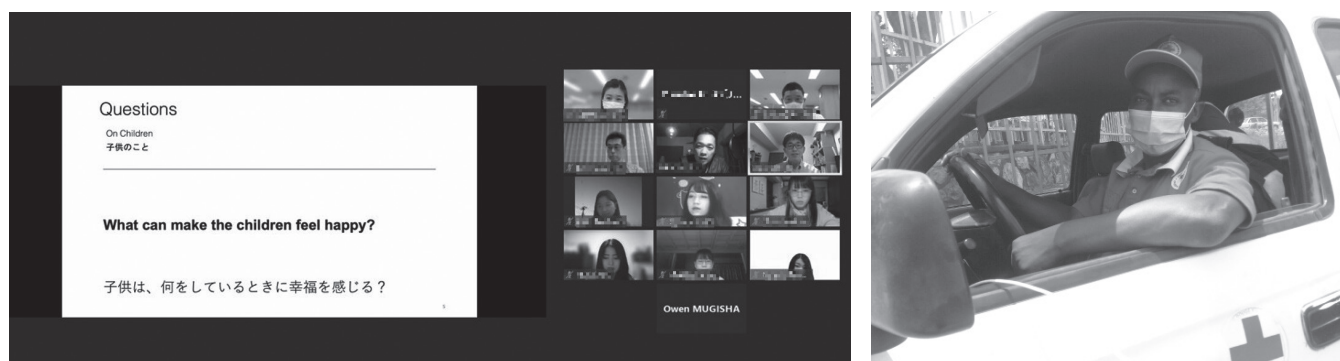
青年学生赤十字奉仕団員であれば、誰でも参加できる専門チームで、3つのプロジェクトチームが組織されています。

・災害対策プロジェクトチーム

災害対応訓練やワークショップへの参加、減災、防災に関する知識と技術の普及のための講習会を開催しています。静岡県、福岡県、熊本県、大分県の青年赤十字奉仕団と合同で、災害ボランティアセンター運営ゲームについての勉強会を開催しました。

・Global Project Team

「NHK海外たすけあい」キャンペーンの推進と、紛争や災害及び国際救援、開発協力に関する研修会を開催しています。日本赤十字社が開発協力事業を行っているルワンダのレジリエンス強化事業に参加し、ルワンダの子どもたちを支援する活動計画を立案しました。



ルワンダ赤十字社の職員にユースメンバーが英語でインタビュー

・JRC X Friendship プロジェクトチーム

青少年赤十字との交流事業の企画や、青少年赤十字の行事をサポートしています。災害や国際、献血をテーマとした青少年赤十字メンバーとの交流を実施しました。

青年学生赤十字奉仕団リーダーシップ研修会

開催期日	会場	参加人数	内容
3月23日	オンライン	39人	1 リーダーシップについて 2 赤十字事業について 3 赤十字ボランティアについて 4 SNSの取り扱いについて 5 令和4年度事業計画・重点項目 6 事務手続きについて

日本赤十字社第2ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会（群馬県支部当番）

区分	開催期日	会場	参加人数	内容
第1回	6月20日	オンライン	協議会役員 1人 担当職員 1人	1 自己紹介 2 青年赤十字奉仕団全国協議会報告 3 赤十字ユース委員会について 4 協議 5 照会事項確認
第2回	11月6日	オンライン	協議会役員 1人 担当職員 1人	1 自己紹介 2 分科会 ・青年赤十字奉仕団代表者部会 ・支部担当者部会 3 全体会（分科会の報告） 4 日赤災害ボランティアセンター運営ゲームの紹介

● 特殊赤十字奉仕団団員数

番号	奉仕団名	団員数
1	東京安全赤十字奉仕団	124 人
2	東京都特殊救護赤十字奉仕団	28 人
3	三鷹市特殊赤十字奉仕団	31 人
4	視覚障害者援護赤十字奉仕団	57 人
5	町田市点訳赤十字奉仕団	29 人
6	東京指圧救護赤十字奉仕団	64 人
7	東京都看護赤十字奉仕団	74 人
8	ハンドケア・ビューティケア赤十字奉仕団	52 人
9	大田区訪問介護赤十字奉仕団	23 人
10	JAL 労働組合客乗支部赤十字奉仕団	7 人

番号	奉仕団名	団員数
11	東京都青少年赤十字賛助奉仕団	81 人
12	東京都ビューティケア赤十字奉仕団	43 人
13	東京都 JHSA 赤十字奉仕団	18 人
14	朗読赤十字奉仕団	70 人
15	東京都ノルディックウォーキング赤十字奉仕団	12 人
16	東京都赤十字二輪奉仕団	25 人
17	東京都赤十字写真奉仕団	30 人
18	東京都隊友救護赤十字奉仕団	36 人
合計		804 人

5 青少年赤十字

JUNIOR RED CROSS

青少年赤十字（JRC）は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕する心、そして世界の人々と分かり合う姿勢を育むことを目的として、日常生活や学校教育の中で様々な活動を展開しています。

令和3年度は、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、従来のJRC活動が困難となりましたが、「気づき・考え・実行する」というJRCの態度目標に基づき、それぞれが今できることに取り組みました。

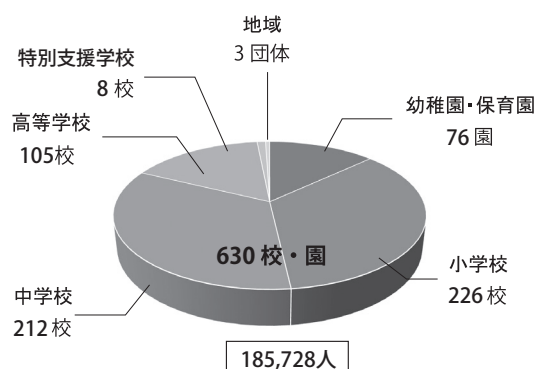
加盟登録状況

青少年赤十字は、学校や園がそれぞれの教育、保育方針に基づいて自主的に活動する「加盟登録制度」を採用しています。また、学校や園の実情に合わせて、指導者となる先生方の自由裁量により、主体的に活動を実践していただいています。

令和3年度末現在で、

東京都内の **630 校（園）** が加盟しており、

185,728人 のメンバーが活動に参加しています。



	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	加盟校数	生徒数	加盟校数	生徒数	加盟校数	生徒数
幼稚園・保育園	76園	5,843人	77園	6,510人	76園	6,717人
小学校	226校	97,236人	222校	94,044人	216校	90,682人
中学校	212校	55,709人	214校	56,365人	212校	56,272人
高等学校	105校	25,592人	105校	25,099人	106校	25,418人
特別支援学校	8校	1,301人	8校	1,339人	8校	1,355人
地 域	3団体	47人	3団体	47人	3団体	51人
合 計	630校	185,728人	629校	183,404人	621校	180,495人

■ 加盟登録式

令和3年度	令和2年度	令和元年度
10件 (資料・映像提供)	派遣中止 (資料・映像提供)	37件

■ その他（国際救援講演、1円玉募金贈呈式等）

令和3年度	令和2年度	令和元年度
30件	5件	37件

● メンバー連絡協議会（オンライン）

青少年赤十字に加盟している学校や園の生徒、園児たちをメンバーと呼んでいます。

東京都支部は、中学校・高等学校のメンバーで構成される協議会を開催して、メンバー同士の親睦を図りながら、目的の共有や青少年赤十字の活動を向上させるための協議を行っています。

[会議等]

開催日	参加者数	内 容
5月15日	106人	合同登録式・コロナ禍でのボランティア活動
6月19日	66人	防災・減災について、ジレンマゲーム
9月11日	38人	「cross project」美味しく食べよう非常食
11月13日	66人	「cross project」大学生と学ぶ、ルワンダに生きる子どもたち
1月23日	26人	新型コロナウイルス感染症による差別や偏見について
3月14日	14人	「cross project」青年学生赤十字奉仕団による中高生メンバーとの相談・交流会
計	6回	316人



中継でルワンダから現地の様子をレポート

ハイゼックスの使い方

ハイゼックスに
食材を入れるよ！

調味料を入れて…

しっかりと結ば！
はれないようにね。

鍋の湯を溢かすよ！
※火回し注意！

ドン！

できあがり～

先日、キャンプでハイゼックスを使ってみました！
1人分の料理がお鍋を汚さず
作れちゃいます。
しかも美味しい…
ぜひ試してくださいね♪

管理栄養士 中下 涼
(健康・栄養赤十字奉仕団 代表)

Japanese Red Cross Society Tokyo Cross Project 4

非常食の作り方を学んでレシピを考案

● 東京都青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字の直接の指導者である学校や幼稚園の教諭、保育士等が相互の活動における情報や研究結果等を共有し、よりよい指導を行うために協議会を組織しています。

[会議等]

名 称	開催日	参加者数
第1回運営委員会	6月3日	11人
第2回運営委員会	10月28日	12人
総 会	書面開催	—

[全国 / 第2ブロックの会議への参加]

名 称	開催日	参加者数
青少年赤十字全国指導者協議会総会	6月29日	2人
第2ブロック青少年赤十字指導者協議会・研究集会	8月20日	3人

● 各種研修会の開催

[青少年赤十字指導者研修会（新任指導者研修）]

開催日	会場	参加者数	内容
中止 (資料配布にて代替)	東京都支部	—	青少年赤十字について 活動校による事例発表 赤十字が提供できるメニュー

[リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成研修]

主催	開催日	会場	参加者数	内容
本社	6月5日	オンライン	1人	リーダーシップ・トレーニングセンターの指導者として必要な知識、技術を学ぶ
東京都支部	中止	高尾の森 わくわくビレッジ	—	青少年赤十字の理解と実践 指導技法の習得を目指した学習 各種体験学習 他

[防災教育教材「まもるいのちひろめるぼうさい」指導者研修会]

開催日	会場	参加者数	内容
8月23日 ～9月6日	オンライン (ホームページ上で実施)	—	教材紹介・配付

[指導主事対象青少年赤十字研究会]

開催日	会場	参加者数	内容
9月30日	オンライン	2人	講演、事例発表、分科会 等

● メンバー派遣事業

[リーダーシップ・トレーニング・センター（メンバー対象）]

校種	開催日	会場	参加者数	内容
小学校	中止 (代替事業を実施)	高尾の森 わくわくビレッジ	—	赤十字 / 青少年赤十字の学習 福祉体験 / 健康安全 国際理解プログラム フィールドワーク 他
中学校				
高等学校				

[青少年赤十字スタディ・プログラム]

主催	開催日	手法	参加人数	内容
本社	12月25日～26日	オンライン	13人	新型コロナウイルス感染症と人道の こころ（国際人道法）、各青少年赤 十字メンバーの活動に関する悩み等の 共有

[家族で！赤十字防災デー]

(リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施)

校種	開催日	手法	参加人数	内容
小学校	7月31日	オンライン	12人	保護者とともに非常用トイレ体験や 災害時シミュレーションを通じて、 赤十字と防災について体験し、考 えるプログラム



親子でいざという時の備えについて考える

[JRC リーダーシップ・チャレンジ]

(リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施)

校種	開催日	手法	参加人数	内容
中学校	8月16日～18日	オンライン	28人	他校のメンバーとのコミュニケーションをメインに、リーダーシップや新型コロナウイルス感染症の影響について考え、自分の意見を伝えるプログラム

[JRC ワークショップ×チャレンジ]

(リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施)

校種	開催日	手法	参加人数	内容
高等学校	8月3日～5日	オンライン	44人	オンライン指導型のワークショップセミナー、ワークショップの企画・作成から動画での成果発表会の実施
	10月30日			

● 国際理解・親善

◆ 国外の教育等支援事業のための募金活動

青少年赤十字メンバーが「1円玉募金」を集めたり、使用済み切手やプリペイドカードを収集し換金することにより資金を調達したりして、2 か国（ネパール、バヌアツ）の姉妹社が実施する教育・衛生環境の改善等の活動を支援しています。

・1円玉募金

令和3年度	令和2年度	令和元年度
29件 341,734円	14件 135,573円	41件 476,109円

・使用済み切手・プリペイドカード

令和3年度	令和2年度	令和元年度
83件 11,000円	26件 5,500円	41件 29,100円

◆ 第18回ソウル・北京・東京 青少年赤十字交流プログラム

三首都交流事業の一環として、青少年赤十字メンバー（中・高生）を対象とした交流事業を実施しています。赤十字を接点として集まった3か国のメンバーが国や文化を越えて交流し、相互理解を促すとともに国際的な視点を成長させることを目指しています。

開催日程

開催地

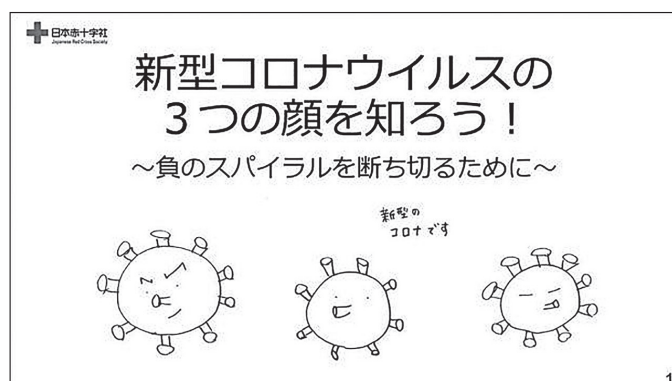
中止

参加者

● 新型コロナウイルス感染予防・対策関連活動

校種	開催日	手法	参加人数	内容
幼稚園・保育園 ～高等学校	随時	郵送・ オンライン	—	・新型コロナウイルス3つの顔 ・手洗い、うがいについて

主催	開催日	会場	参加人数	内容
東京都教育庁	6月27日	東京都障害者 福祉会館	15人	コロナウイルスと私たちのキョリ
東京都教育庁	2月8日	オンライン	60人	人権学習指導者研修 「コロナ感染症に関する偏見や差別をなくす ために」



差別や偏見を防ぐための啓発資料



人権学習に関する講演

● 赤十字運動月間における PR 活動

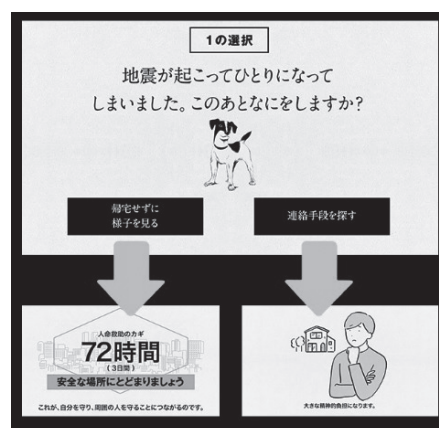
昨年度に引き続き、東京都支部のある新宿区内の新宿大通り商店街、新大久保商店街において、赤十字フラッグを掲揚し、5月の赤十字運動月間をPRしました。



赤十字フラッグの掲揚

● 「ACTION! 防災・減災」

日本赤十字社では令和2年度から「防災・減災への備え」をコンセプトとした「ACTION! 防災・減災 - 命のために今うごく -」を展開しています。東京都支部は、令和3年度は首都直下地震に焦点を当て、ストーリー選択動画による体感型特設サイト「首都直下地震 10 の選択」を開設しました。災害が起きた場合の被害状況や、自分や大切な人のいのちを守るための行動を追体験しながら学ぶ内容で、一人でも多くの方に「防災・減災」に関する意識と知識を持ってもらえるよう呼びかけました。



ストーリーを選択して「防災・減災」に関する知識を学ぶ

● NT（広報誌）の発行

季刊広報誌としてNT（NISSEKI TOKYO）を発行し、四半期ごとの赤十字事業紹介のみならず、新型コロナウイルス感染症に関する情報やSDGs、視覚障害、認知症に関する基礎知識等を幅広く提供しました。



● その他広報活動

◆ SNS を活用した赤十字活動の普及

多くの方に赤十字の事業についてご理解いただけるよう、ホームページやSNS（Facebook、Instagram、Twitter、YouTube）を活用した広報活動を積極的に行いました。

令和3年度はイベント・事業の予告や報告にとどまらず、災害への備えや日常生活で起こりうる病気やけがへの対処方法等についても、親しみやすい動画や写真を使用して幅広い世代へ向けて発信・普及しました。



公式 YouTube で公開した動画



Instagram でいのちと健康を守るための知識や技術を分かりやすく発信

◆マスメディアを通して情報発信

効果的なプレスリリースを行うことでマスメディアへの露出機会を創出し、より多くの方へ赤十字の活動を知っていただけるよう努めました。



河川での事故を防ぐための講習を番組で特集される



TV等で紹介された認知症予防講習

● 赤十字運動月間キャンペーン

開催日	場所	内容	奉仕団
5月1日	筈笥町出張所	パネル展	新宿区筈笥町分団
5月7日	杉並区役所 1F ロビー		杉並区
5月10～13日	中野区役所 1F ロビー		中野区
5月18～21日	立川市役所多目的プラザ		立川市
5月22日	市役所屋内ひろば		東久留米市

[地域祭り等への参加・協力]

開催日	行事	会場	奉仕団
6月6日	府中市福祉まつり	オンライン	府中市
11月14日	立川市総合防災訓練	立川市第二中学校	立川市
11月27日	府中市市民協働まつり	府中市市民活動センター	府中市
11月27日	第15回中野救護フェスタ	麒麟レモンスポーツセンター	中野区
3月13日	立川シティーハーフマラソン	昭和記念公園	立川市

● 東京都赤十字大会

ボランティアの功績や、多額の寄付をいただく等、赤十字事業に一定のご協力をいただいた個人・法人を顕彰させていただくため、毎年10月に開催していましたが、令和3年度はコロナ禍により中止となりました。

		令和3年度	令和2年度	令和元年度
金色有功章	社資功労受章者	312	307	196
	業務功労受章者	237	353	257
銀色有功章	社資功労受章者	511	471	352
	業務功労受章者	364	438	403
社長感謝状	社資功労受章者	346	260	222
	業務功労受章者	113	63	97
支部長感謝状	業務功労受章者	1,354	1,512	1,710
血液センター所長感謝状		7	12	12
合計		3,244	3,416	3,249

● 会員（社員）の登録状況

東京都支部の活動は、金融機関や市区町村の赤十字窓口を通じて、一定額の会費（社費）を納入いただいた個人 34,263 人、法人 8,578 社の会員（社員）※の方々に支えられています。

令和 3 年度		令和 2 年度		令和元年度	
個人	法人	個人	法人	個人	法人
34,263人	8,578社	30,432人	8,670社	23,280人	8,215社

※社員制度の見直しにより、平成29年4月1日から社員を会員と呼称変更し2,000円以上のご協力者で会員を希望された方を会員登録しています。

● 事業報告

◆ 活動報告と協力依頼のダイレクトメール

都民と都内の法人の皆さまに、東京都支部の活動を広く周知し協力を依頼するため、定期的にダイレクトメールを発送しています。

[個人向け協力依頼]

	発送時期	発送数
第 1 回	4月	80,000件
第 2 回	7月	44,500件
第 3 回	9月	5,000件
第 4 回	9月	7,500件
第 5 回	11月	34,000件
第 6 回	3月	17,500件
合計	—	188,500件

[法人向け協力依頼]

	発送時期	発送数
第 1 回	4月	100,000件
第 2 回	7月	13,000件
第 3 回	9月	5,000件
第 4 回	9月	10,000件
第 5 回	9月	2,000件
第 6 回	11月	43,000件
第 7 回	2月	20,000件
第 8 回	3月	4,500件
合計	—	197,500件

◆ 活動資金の納入実績

令和 3 年度は、目標額の177.4%となる2,110,894,325円のご寄付をいただきました。

	地区	一般	法人	合計
令和 3 年度目標額	615,950,000 円	374,050,000 円	200,000,000 円	1,190,000,000 円
令和 3 年度実績額	611,531,221 円	1,052,980,603 円	446,382,501 円	2,110,894,325 円
目標達成率	99.3%	281.5%	223.2%	177.4%

[納入実績]

			実績額	目標額	達成率
令和3年度	地区	区	502,098,507円	445,593,000円	112.7%
		市	104,350,482円	164,761,000円	63.3%
		町村	4,893,732円	5,596,000円	87.5%
		地区不特定	188,500円	—	—
		小計	611,531,221円	615,950,000円	99.3%
	支部	一般	1,052,980,603円	374,050,000円	281.5%
		法人	446,382,501円	200,000,000円	223.2%
		小計	1,499,363,104円	574,050,000円	261.2%
合計			2,110,894,325円	1,190,000,000円	177.4%
令和2年度	地区	区	436,170,166円	445,593,000円	97.9%
		市	117,934,107円	164,761,000円	71.6%
		町村	5,670,240円	5,596,000円	101.3%
		地区不特定	865,650円	—	—
		小計	560,640,163円	615,950,000円	91.0%
	支部	一般	1,205,825,089円	394,050,000円	306.0%
		法人	546,188,454円	200,000,000円	273.1%
		小計	1,752,013,543円	594,050,000円	294.9%
合計			2,312,653,706円	1,210,000,000円	191.1%
令和元年度	地区	区	458,756,718円	445,593,000円	103.0%
		市	114,131,163円	164,761,000円	69.3%
		町村	6,082,471円	5,596,000円	108.7%
		地区不特定	627,000円	—	—
		小計	579,597,352円	615,950,000円	94.1%
	支部	一般	568,598,326円	384,050,000円	148.1%
		法人	275,268,711円	200,000,000円	137.6%
		小計	843,867,037円	584,050,000円	144.5%
合計			1,423,464,389円	1,200,000,000円	118.6%
平成30年度	地区	区	462,964,013円	445,593,000円	103.9%
		市	112,843,782円	164,761,000円	68.5%
		町村	6,143,718円	5,596,000円	109.8%
		地区不特定	417,000円	—	—
		小計	582,368,513円	615,950,000円	94.5%
	支部	一般	544,666,504円	374,050,000円	145.6%
		法人	261,693,154円	200,000,000円	130.8%
		小計	806,359,658円	574,050,000円	140.5%
合計			1,388,728,171円	1,190,000,000円	116.7%

[高額寄付件数]

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	100万円～	500万円～	100万円～	500万円～	100万円～	500万円～
地区	24件	10件	22件	4件	12件	2件
支部（一般）	125件	45件	155件	54件	84件	20件
支部（法人）	68件	18件	74件	21件	45件	6件
合計	217件	73件	251件	79件	141件	28件

[地区別納入実績]

地 区 名	実 績 額	(実績額内訳)					目 標 額	達 成 率
		地 区 募 集 額	預 金 口 座 振 替	クレジッカード	Pay 決 済	そ の 他		
千 代 田 区	9,474,265	1,823,852	1,371,000	6,279,413	0	0	2,910,000	325.6%
中 央 区	8,871,890	2,078,270	1,477,000	5,316,620	0	0	4,835,000	183.5%
港 区	22,898,331	3,183,201	3,845,000	15,839,630	500	30,000	8,763,000	261.5%
新 宿 区	17,163,328	4,080,651	2,882,000	10,192,677	8,000	0	11,236,000	152.8%
文 京 区	13,066,980	6,775,059	1,040,000	5,250,780	500	641	14,629,000	89.3%
台 東 区	9,242,872	5,504,024	1,372,000	2,346,848	0	20,000	8,005,000	115.5%
墨 田 区	11,748,742	5,324,072	874,000	5,533,670	17,000	0	11,061,000	106.2%
江 東 区	15,550,937	9,576,386	1,719,000	4,255,051	500	0	16,420,000	94.7%
品 川 区	40,073,540	6,774,144	2,412,000	30,834,396	53,000	0	20,678,000	193.8%
目 黒 区	21,095,456	14,766,071	1,270,000	5,059,385	0	0	18,276,000	115.4%
大 田 区	42,276,264	32,432,938	2,457,000	7,086,326	0	300,000	43,367,000	97.5%
世 田 谷 区	41,067,743	17,749,708	4,733,000	18,581,044	3,991	0	58,917,000	69.7%
渋 谷 区	21,543,271	7,282,277	1,768,000	12,486,994	6,000	0	16,818,000	128.1%
中 野 区	24,526,818	18,078,168	1,060,000	5,388,650	0	0	19,958,000	122.9%
杉 並 区	17,438,614	8,849,366	2,498,000	6,084,500	5,000	1,748	27,689,000	63.0%
豊 島 区	13,117,236	7,933,669	1,179,000	4,004,567	0	0	14,284,000	91.8%
北 区	25,656,687	21,233,952	1,767,000	2,590,235	15,500	50,000	19,150,000	134.0%
荒 川 区	11,439,210	9,331,889	704,000	1,353,321	0	50,000	9,466,000	120.8%
板 橋 区	26,018,763	10,863,048	2,201,000	12,949,715	0	5,000	22,380,000	116.3%
練 馬 区	22,046,011	6,430,422	3,158,000	12,457,589	0	0	30,054,000	73.4%
足 立 区	38,267,653	21,981,653	2,924,000	13,359,000	0	3,000	23,751,000	161.1%
葛 飾 区	25,712,206	22,003,706	1,207,000	2,299,000	2,500	200,000	21,202,000	121.3%
江 戸 川 区	23,801,690	18,230,050	2,476,000	3,071,640	12,000	12,000	21,744,000	109.5%
小 計	502,098,507	262,286,576	46,394,000	192,621,051	124,491	672,389	445,593,000	112.7%
八 王 子 市	15,379,962	11,000,897	1,519,000	2,860,065	0	0	17,509,000	87.8%
立 川 市	5,750,475	4,309,475	637,000	804,000	0	0	6,628,000	86.8%
武 蔵 野 市	8,059,751	5,675,706	614,000	1,770,045	0	0	8,947,000	90.1%
三 鷹 市	7,242,516	3,254,893	579,000	3,408,623	0	0	9,052,000	80.0%
青 梅 市	3,755,159	2,651,159	813,000	288,000	0	3,000	4,980,000	75.4%
府 中 市	4,123,100	2,238,804	605,000	1,235,296	0	44,000	9,208,000	44.8%
昭 島 市	2,975,369	2,277,369	100,000	398,000	0	200,000	4,371,000	68.1%
調 布 市	10,138,460	4,586,100	1,136,000	4,059,860	1,000	355,500	10,663,000	95.1%
町 田 市	7,734,338	3,483,471	1,319,000	2,911,867	0	20,000	14,975,000	51.6%
小 金 井 市	3,974,021	2,546,021	724,000	704,000	0	0	5,964,000	66.6%
小 平 市	3,722,378	2,462,878	479,000	778,000	500	2,000	7,706,000	48.3%
日 野 市	2,429,031	1,142,131	315,000	910,000	0	61,900	6,941,000	35.0%
東 村 山 市	2,426,440	1,651,440	377,000	398,000	0	0	5,972,000	40.6%
国 分 寺 市	3,923,625	2,262,631	688,000	971,200	0	1,794	5,382,000	72.9%
国 立 市	2,808,253	2,217,253	156,000	435,000	0	0	3,771,000	74.5%
福 生 市	2,213,040	2,078,040	42,000	93,000	0	0	3,306,000	66.9%
狛 江 市	808,748	114,748	222,000	412,000	0	60,000	3,782,000	21.4%
東 大 和 市	967,210	561,210	179,000	227,000	0	0	3,227,000	30.0%
清 瀬 市	601,361	266,361	153,000	182,000	0	0	3,018,000	19.9%
東久留米市	1,870,840	1,167,840	571,000	122,000	0	10,000	5,103,000	36.7%
武蔵村山市	649,896	594,896	24,000	28,000	0	3,000	2,556,000	25.4%
多 摩 市	2,150,987	704,487	749,000	695,000	0	2,500	4,636,000	46.4%
稲 城 市	3,058,821	2,243,821	342,000	473,000	0	0	2,564,000	119.3%
羽 村 市	2,091,430	1,964,430	15,000	112,000	0	0	1,934,000	108.1%
あきる野市	3,433,988	3,193,988	118,000	122,000	0	0	3,402,000	100.9%
西 京 都 市	2,061,283	746,997	675,000	638,786	500	0	9,164,000	22.5%
小 計	104,350,482	65,397,046	13,151,000	25,036,742	2,000	763,694	164,761,000	63.3%
西 多 摩	2,278,500	2,112,500	149,000	17,000	0	0	2,632,000	86.6%
大 島	2,107,137	2,009,137	20,000	78,000	0	0	1,350,000	156.1%
三 宅	97,151	87,151	10,000	0	0	0	321,000	30.3%
八 丈	213,444	113,444	100,000	0	0	0	1,075,000	19.9%
小 笠 原	197,500	195,500	0	2,000	0	0	218,000	90.6%
小 計	4,893,732	4,517,732	279,000	97,000	0	0	5,596,000	87.5%
地区不特定	188,500	0	5,000	183,500	0	0		
合 計	611,531,221	332,201,354	59,829,000	217,938,293	126,491	1,436,083	615,950,000	99.3%

◆ 様々な協力依頼の実施

活動資金の納入方法は、郵便局・銀行での振り込み、自動口座引き落としやクレジットカードでの決済等の方法を用意しています。この他にも、ホテルや店舗等へのチャリティーボックスの設置、香典返しに代えての寄付、遺贈・相続財産の寄付等、様々な方法によって寄付いただける環境を揃えています。

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	数	金額	数	金額	数	金額
チャリティーボックスでの寄付	125件	1,568千円	85件	2,135千円	123件	1,843千円
香典返しに代えての寄付	4件	500千円	9件	1,160千円	4件	2,350千円
遺贈・相続財産の寄付	36件	253,155千円	35件	172,814千円	10件	108,830千円

◆ 国家表彰

年度内に一定以上の金額を活動資金にご協力いただいた個人・法人に対しては、その金額に応じて、国の表彰・褒章制度である「厚生労働大臣感謝状」や「紺綬褒章」の授与申請を行っています。令和3年度は、申請により個人59人、法人19社が受章しました。

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	個人	法人	個人	法人	個人	法人
厚労大臣感謝状	23人	5社	64人	4社	16人	0社
紺綬褒章	36人	14社	24人	7社	20人	1社
合計	59人	19社	88人	11社	36人	1社

また、これ以外にも、日本赤十字社独自の表彰制度により、「東京都赤十字大会」において、多額のご協力をいただいた個人・法人に対し「有功章」や「感謝状」を授与しています。詳細は、37ページ「東京都赤十字大会」をご参照ください。

◆ 特別社資募集

武蔵野赤十字病院の新棟建築について、特別社資募集を行いました。

施設名	金額	募集期間
武蔵野赤十字病院	184,555,126円	平成29年8月1日～令和5年3月31日

※令和4年3月31日現在

医療事業

● 医療事業体制の概況

都内3か所の赤十字医療施設は、地域における中核的、公的医療機関として、救急医療、へき地専門診療等に取り組むとともに、災害時には国内外の被災地に医師・看護師を派遣し、救護活動の拠点となる機能も備えています。

区 分	許可病床数	診療科数	患者数（延数）		病床利用率
			入 院	外 来	
武蔵野赤十字病院	611 床	33 科	194,868 人	304,459 人	92.0%
大森赤十字病院	344 床	25 科	85,246 人	154,925 人	67.9%
東京かつしか赤十字 母子医療センター	104 床	2 科	26,885 人	38,829 人	75.2%

● へき地専門診療

地域医療の確保と充実を図るため、地域において確保困難な専門診療を実施しています。

	実施期間	診療科目	患者数	派遣施設	派遣人員
利 島 村	10月7日～10日	整 形 外 科	93 人	武蔵野赤十字病院	2 人
三 宅 村	6月9日～11日	整 形 外 科	45 人	武蔵野赤十字病院	1 人
	11月10日～12日	整 形 外 科	44 人	武蔵野赤十字病院	1 人
	2月16日～18日	整 形 外 科	37 人	武蔵野赤十字病院	1 人
御 蔵 島 村	6月7日～8日	耳 鼻 咽 喉 科	43 人	武蔵野赤十字病院	2 人
	10月7日～8日	整 形 外 科	14 人	大 森 赤 十 字 病 院	3 人
	11月8日～10日	小 児 科	17 人	東京かつしか赤十字 母子医療センター	2 人
青 ヱ 島 村	4月14日～16日	整 形 外 科	18 人	大 森 赤 十 字 病 院	2 人
	4月19日～20日	耳 鼻 咽 喉 科	22 人	武蔵野赤十字病院	2 人
小 笠 原 村	1月18日～29日	整 形 外 科	124 人	武蔵野赤十字病院	3 人
合 計	5 島 10 回	3 科	457 人	3 施設	19 人

※「受診者数」には、保育園検診及び学校健診が含まれています。

武蔵野赤十字病院

● 基本理念

病む人への愛 同僚と職場への愛 地域住民と地域への愛 地球・自然・命への愛

● 基本方針

- ・患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- ・地域中核病院としての機能向上を図ります
- ・地域の医療機関・行政と連携して、市民が安心して住める地域づくりを進めます
- ・質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- ・働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

● 事業報告

◆新病棟の建築

- ・予てから計画をしている新1番館の建設工事について、実施設計が完了し、施工業者が決定しました。令和7年4月の竣工に向けて、遅滞なく計画を進めていきます。

◆質の高い医療の提供

- ・地域の医療機関からの急患を含む紹介患者を全て受け入れる等、高度急性期病院としての使命を果たすとともに、内視鏡手術支援ロボット（ダヴィンチ）をはじめとする高度医療の提供に努めました。
- ・ニーズが高まっていることを踏まえ、無痛分娩を開始しました。地域の医療機関とさらに連携を強化し、安心・安全にお産ができる体制整備に取り組みました。

◆新型コロナウイルス感染症への取り組み

- ・国や東京都等からの要請に基づき、コロナ対応病棟を設置し、病院一丸となって対応にあたっています。医師・看護師・事務職員等、他職種からなるCOVIDセンターを開設し、近隣医療機関等からの受入調整や救急車の応需、刻々と変わる情報の共有等、COVIDに関する様々な情報を一元的に管理しました。また、コロナ診療応援体制を構築し、全診療科が協力して対応しました。

◆地域や近隣医療機関との連携

- ・地域住民の皆さまを対象とした、以下の講座を行いました。
東京都肝疾患診療連携拠点病院市民公開講座
「知っておきたい！肝臓にまつわる大事な知識」（WEB 配信）
地域がん診療連携拠点病院（高度型）市民公開講座
「前立腺がんの全て」（WEB 配信）
- ・また、近隣医療機関の方を対象とした以下の会議を行いました。
地域医療支援病院運営協議会
東京都周産期医療ネットワークグループ連絡会議

◆救護活動、国際活動

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり、救命救急科部長が会場医療者統括責任者を担当したほか、競技会場へ救護要員等を派遣しました。
派遣人数：医師21人、看護師42人（オリンピック）
医師10人、看護師10人（パラリンピック）
事務職員延べ62人

- ・ナイジェリア紛争犠牲者支援事業へ看護師1人を派遣しました。
派遣先：ナイジェリア共和国 マイドゥグリ市
派遣期間：令和3年4月～10月

大森赤十字病院

● 基本理念

信頼され心あたたまる病院

● 基本方針

- ・安全で質の高い医療を提供します
- ・救急医療を充実し地域医療に貢献するよう努めます
- ・災害救護に積極的に取り組みます
- ・経営の健全化を図りその成果を医療活動に還元します
- ・医療従事者の教育と研究を推進します
- ・ワークライフバランスを尊重した職場環境の整備を進めます

● 事業報告

◆救急医療の強化

- ・救急受入体制を確立し、救急隊からの応需率を向上させるための取り組みを行いました。

◆地域医療連携の推進

- ・在院日数の適正化とベッドコントロールの強化により、地域医療機関への紹介・逆紹介を推進しました。
- ・高齢者医療に対応出来る総合診療体制の構築に向けて、訪問看護ステーション・訪問リハビリテーション・居宅介護支援センターを積極的に活用しました。

◆その他

- ・コロナ禍により多数負傷者受入対応訓練の実施は見送りましたが、災害へ備えるため、院内情報伝達訓練を行いました。
- ・地域への貢献のため、患者さまや地域の皆さまを対象とした院内演奏会を予定していましたが、本年度は感染対策として、職員に対する慰労の演奏会に変更して開催しました。
(コロナ禍により世界赤十字デーのイベント及び「医療公開講座」は中止となりました)

東京かつしか赤十字母子医療センター

● 基本理念

赤十字精神に基づき、女性と子どもとそしてその周囲の人と環境にやさしい病院

● 基本方針

- ・ 質の高い医療の実践
- ・ 地域社会への貢献
- ・ 教育の推進
- ・ 健全な経営と働きやすい職場環境
- ・ 災害救護活動への貢献

● 事業報告

◆新病院の開院

- ・ 令和3年6月に葛飾区内で新築移転し、「東京かつしか赤十字母子医療センター」と名称を改めました。新病院は分娩から出産・新生児管理のワンフロア化により各部門の連携を強化したほか、快適な入院環境の提供のため全室個室化を実現しました。
- ・ 新病院では地域住民や公共機関等との連携を重視し、建物の1階に自治会用防災倉庫を設置しました。また、全国的にも珍しく区立図書館が院内に併設され、絵本の読み聞かせ等の行事が行われています。



新病院 外観

◆質の高い医療サービスの提供

- ・ 地域周産期母子医療センターとしての役割を果たすために、地域の医療機関からの母体搬送並びに新生児搬送を可能な限り受け入れました。
- ・ 多様化する妊婦のニーズに応えるため、無痛分娩を導入しました。



和レトロを意識したデザインの病室

◆新型コロナウイルス感染症への取り組み

- ・ 妊産婦用のコロナ受入病床を3床確保し、東京都や地域の医師会等からの要請に基づき、患者の受入れを行いました。

◆災害への備え

- ・ 新病院での運用に対応する災害対策マニュアル、BCP（事業継続計画）を策定しました。

血液事業

● 血液事業体制の概況

都内 12 か所にある献血ルームでは、快適に献血できるように地域環境に適応した施設設計や接遇内容の工夫に努めています。また、血液センターでは献血血液から製造された輸血用血液製剤が医療機関へ安定的に供給できるように努めています。

新宿区	新宿西口献血ルーム	千代田区	有楽町献血ルーム	渋谷区	ハチ公前献血ルーム
	都庁献血ルーム		akiba:F 献血ルーム	立川市	立川献血ルーム
	新宿東口献血ルーム	豊島区	献血ルーム池袋い〜すと	武蔵野市	献血ルーム吉祥寺タキオン
墨田区	献血ルーム feel		献血ルーム池袋ぶらっと	町田市	まちだ献血ルーム comfy

新宿東口に日本最大級の献血ルームがオープン

12 月 17 日、新宿東口献血ルームが献血者の受入れ環境を拡充して、日本最大級のルームとして再オープンしました。新ルームはシンプルかつ快適で落ち着いた空間となっていることに加え、感染症対策も万全の「新しい生活様式」に対応したつくりになっています。

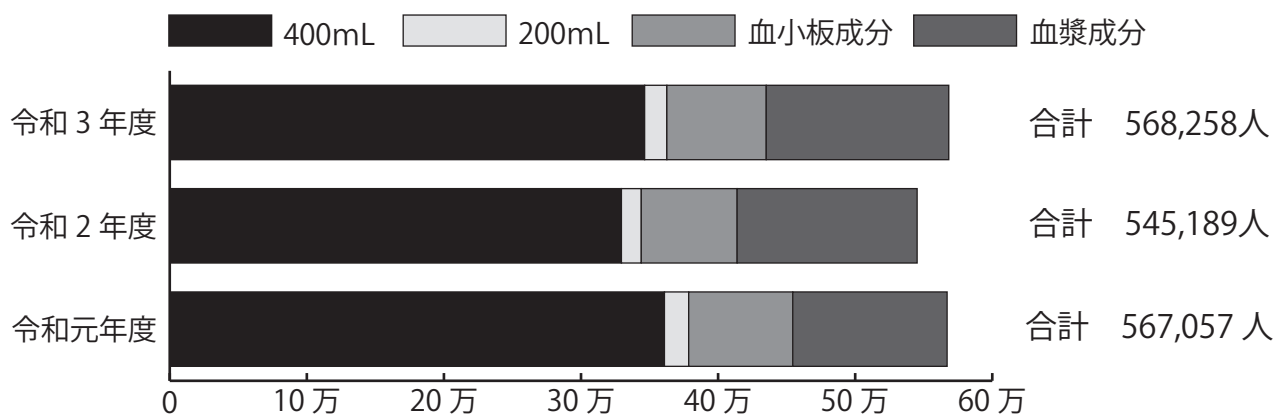


車いすや補助犬の導線も意識したユニバーサルデザイン

● 事業報告

- ・ 都内の献血者数と供給状況
令和 3 年度は、都内で延べ 568,258 人の方に献血のご協力をいただきました。
また、血液製剤を 2,226,163 本（200 m L 換算）都内の医療機関に供給しました。

【献血方法別献血者数推移】



【献血方法別献血者数】

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
400mL 献 血	346,409 人	61.0%	329,479 人	60.4%	360,862 人	63.6%
200mL 献 血	16,210 人	2.9%	14,482 人	2.7%	17,677 人	3.1%
血小板成分献血	72,506 人	12.8%	69,938 人	12.8%	75,925 人	13.4%
血漿成分献血	133,133 人	23.4%	131,290 人	24.1%	112,593 人	19.9%
合 計	568,258 人	—	545,189 人	—	567,057 人	—

【受入施設別献血者数】

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
母 体	371 人	0.1%	215 人	0.0%	267 人	0.0%
献 血 ル ー ム	434,368 人	76.4%	421,188 人	77.3%	409,332 人	72.2%
献 血 バ ス	108,944 人	19.2%	100,437 人	18.4%	106,575 人	18.8%
オープン方式	24,575 人	4.3%	23,349 人	4.3%	50,883 人	9.0%
合 計	568,258 人	—	545,189 人	—	567,057 人	—

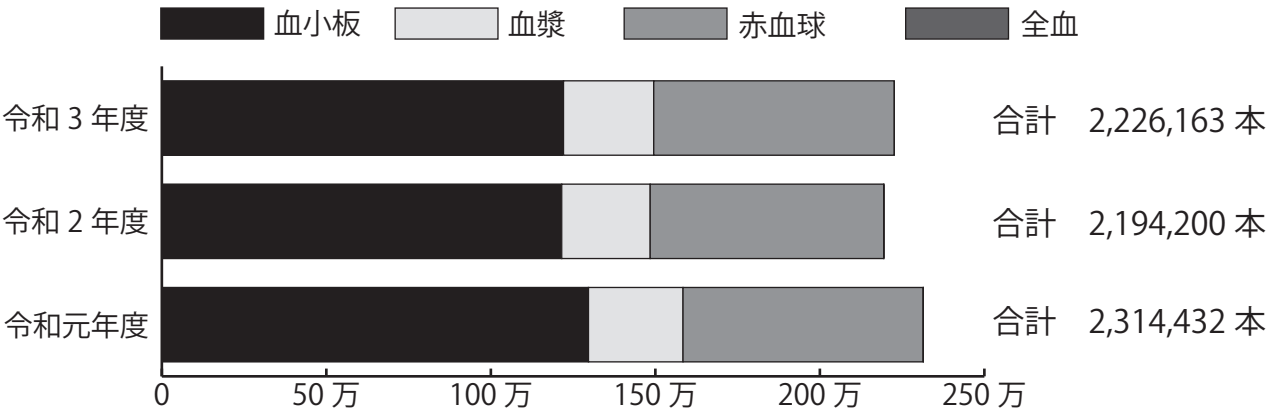
【年代別献血者数】

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
10代(16歳～)	21,481 人	3.8%	16,947 人	3.1%	28,029 人	4.9%
20 代	100,955 人	17.8%	95,864 人	17.6%	106,506 人	18.8%
30 代	102,981 人	18.1%	104,149 人	19.1%	105,187 人	18.5%
40 代	139,139 人	24.5%	142,513 人	26.1%	148,795 人	26.2%
50 代	150,966 人	26.6%	139,474 人	25.6%	135,775 人	23.9%
60 代	52,736 人	9.3%	46,242 人	8.5%	42,765 人	7.5%
合 計	568,258 人	—	545,189 人	—	567,057 人	—

【職業別献血者数】

	令和 3 年度		令和 2 年度		令和元年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
会 社 員	351,292 人	61.8%	340,296 人	62.4%	348,224 人	61.4%
公 務 員	56,471 人	9.9%	55,547 人	10.2%	55,177 人	9.7%
学 生	50,874 人	9.0%	41,488 人	7.6%	60,461 人	10.7%
そ の 他	109,621 人	19.3%	107,858 人	19.8%	103,195 人	18.2%
合 計	568,258 人	—	545,189 人	—	567,057 人	—

【製剤別供給数推移】



	令和 3 年度		令和 2 年度		令和元年度	
	供給本数 (換算本数)	比率	供給本数 (換算本数)	比率	供給本数 (換算本数)	比率
血 小 板 製 剤	1,220,839 本	54.8%	1,215,415 本	55.4%	1,296,730 本	56.0%
血 漿 製 剤	274,273 本	12.3%	268,951 本	12.3%	287,395 本	12.4%
赤 血 球 製 剤	731,051 本	32.8%	709,822 本	32.3%	730,283 本	31.6%
全 血 製 剤	0 本	0.0%	12 本	0.0%	24 本	0.0%
合 計	2,226,163 本	—	2,194,200 本	—	2,314,432 本	—

※「換算本数」は、各製剤の単位数を本数に換算した本数
※血漿製剤の単位換算は、FFP-LR120 を 1 単位、FFP-LR240 を 2 単位、FFP-LR480 を 4 単位としていること

● 複数回献血クラブ

安全な血液を安定的に確保することを目的に、東京都内の複数回献血クラブ会員に対し、メール等による献血協力依頼を行いました。

	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
登録者数	474,871 人	433,939 人	394,123 人

● 骨髄ドナー登録への協力

日本赤十字社は「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に定められた支援機関として、（公財）日本骨髄バンクの行う骨髄ドナー登録の推進に協力しています。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
登録者数(都内)	68,558 人	67,073 人	66,833 人
登録者数(全国)	537,820 人	530,953 人	529,965 人

※日本骨髄バンクホームページ／骨髄バンクデータ集より

社会福祉事業

● 社会福祉事業体制の概況

次世代を担う子どもたちが健やかに育つよう、保育所 1 か所と児童養護施設 1 か所を運営しています。

武蔵野赤十字保育園

武蔵野赤十字保育園は、0 歳から就学前までの子どもたちを保育しています。

武蔵野の緑あふれる住宅地に立地しており、武蔵野市でも広い園庭がある保育園です。

子どもたちは、泥んこ遊びが大好きで、園庭を裸足で駆け回っています。

● ミッションステートメント

- ・私たちは「人道・博愛」の赤十字精神のもとに、子どもの人権と、最善の利益を守り、心身ともに健やかで心豊かな成長を目指した保育をします。
- ・子どもが健康で、安全・安心感を持って活動でき、経験や体験を増やして行く保育を大切にします。
- ・養護と教育を一体的に展開することによって、子どもが主体的に活動しながら生きる力を育む保育を大切にします。
- ・子ども一人ひとりの成長、発達を捉え、気持ちに寄り添う保育を大切にします。
- ・子どもの成長、発達を保護者と共有し喜び合うことで、大人も信頼し合い、育ちあえる協力関係を深めていきます。
- ・地域の子育て支援に貢献します。

● 保育方針

- ・心と身体の自立を促す保育
- ・人を慈しむ心を育てる保育
- ・生命及び自然を尊重する精神を培う保育

● クラス編成

定員：11 クラス 178 人

(単位：人)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員数	12	30	30	30	38	38	178
在員数	12	30	30	30	32	38	172

● 事業報告

◆いのちの授業（ぬいぐるみ病院）

杏林大学医学部の学生の協力を得て、人体の話や正しい手洗いの仕方についての授業、ぬいぐるみを患者に見立てた模擬受診を行い、いのちと健康の大切さを学びました。



ぬいぐるみを使ってからだの勉強

◆災害時非常炊出し実習

武蔵野赤十字奉仕団の協力を得て、5歳児が炊出しを体験しました。また、災害時に自分のいのちを自分で守ることの大切さについて学びました。



非常食づくりを体験

◆子育て支援事業

地域の子育て施設として、武蔵野市と連携し、在宅で子育てをする親子を支援しています。各事業の参加者は市報等で募集しています。

区 分	実施回数／人数	内 容
赤ちゃんの広場	5回 親21人 子21人	オンラインで開催 0歳児を養育する家庭や妊婦の方を対象に、わらべ歌や手遊びの練習、親同士の交流を通じて、離乳食や保健に関する情報交換を行う
プレママの広場	6回 親16人 子8人	オンラインで開催 妊娠中の方を対象に、産後の育児イメージを広げるプログラムを行う
体 験 保 育	6回 親18人 子9人	オンラインで開催 園の概要や園内の遊びの場所を写真で見てもらったり、質疑応答、保育士から手袋シアター、園児の食事、遊びを写真や動画で提供する
ご っ ご 遊 び	—	おみせやさん (近隣の小規模保育園児の招待は実施せず)
子 育 て 講 座	中止	外部講師による子育てに関する講演会

◆地域交流事業

地域との交流を通じて園児の社会性を養うとともに、地域の方々に保育事業や赤十字事業に触れてもらう機会を設けています。

区 分	実施回数／人数	内 容
職 場 体 験	10日間 8人	市内の中学生の職場体験者を受け入れ、保育業務と赤十字への理解を促す
ボランティア	1回 5人	武蔵野市赤十字奉仕団により、ハイゼックスを使用した炊出しを支援いただく
世 代 間 交 流	中止	年長者のボランティアによるお話や絵本の読み聞かせや、誕生日会へのデイケア施設コーラス部の招待等を通じて交流を図る
武蔵野市子育てフェスティバル	中止	一般市民、近隣保育園の保護者、児童が参加する武蔵野市主催の同フェスティバルに出展し、赤十字事業を普及する

赤十字子供の家

赤十字子供の家は、家庭環境上、施設養護を必要とする2歳から18歳までの子どもたちに対し、保護養育・自立支援を行う児童養護施設です。

定員は40人で、本園に28人、分園（エトワールフィユ山崎、さくら）に各6人が暮らしています。

● 基本理念

「生きる力を育み、自立へと共に歩む」

- ・人間のいのちと健康・尊厳を守る
- ・子どもの利益を最優先した支援を行う
- ・子どもと家庭の関係を大切にする
- ・子どもの自己決定と主体性を大切にする
- ・子どもの発達支援・自立支援を行う
- ・信頼できる職員であり、安心できる生活を提供する



赤十字子供の家 本園

● 事業報告

◆概要

年間を通じて定員は埋まらない状況で、被虐待児や病弱時、こころに課題を抱えた児童の割合が高い傾向が続いています。

◆感染対策への取組み

- ・手洗いや手指消毒、園内の換気や消毒の徹底
- ・行事の中止や外出等の自粛
- ・健康チェックと一定の制限を設けたうえでの保護者交流の実施
- ・一定の制限を設けたうえでの実習生や研修生、ボランティアの受入れ

◆学童化について

ルール作りや子供会の設立に向けて準備を進めてきました。ケアニーズの高い児童への対応等については、次年度も引き続き検討していきます。

● 在園児等の状況

[月別児童入退所状況（定員40人）]

令和3年度の延べ児童数は421人で入所率は88%でした。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一日在籍児	31人	34人	35人	35人	35人	35人	35人	35人	37人	36人	37人	36人	421人
退所	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	9人	13人
入所	3人	2人	1人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	0人	9人
一時保護	1人	1人	0人	1人	1人	1人	1人	1人	2人	1人	1人	2人	13人

[入所理由推移]

	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
被 虐 待 児	22 人	18 人	20 人
父 母 家 出			
父 母 傷 病	1 人	2 人	2 人
父 母 死 亡			
父 母 就 労			
施設変更 / その他	14 人	16 人	16 人
合 計	37 人	36 人	38 人

[退所理由推移]

	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
家 族 引 取	8 人	2 人	3 人
措 置 変 更	5 人	3 人	6 人
養 育 家 庭		3 人	1 人
里 親 委 託			2 人
そ の 他			1 人
合 計	13 人	8 人	13 人

[在籍児童の状況]

	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
被 虐 待 児	27 人	26 人	27 人
知的障害 / 発達障害	6 人	5 人	6 人
身 体 障 が い			
病 的 症 状	22 人	23 人	13 人
心 理 治 療	19 人	21 人	16 人
外国籍、無国籍	1 人	1 人	1 人
合 計	75 人	76 人	63 人

● 武蔵野市子ども家庭支援センター（受託事業）

◆電話相談

家庭の子育て機能の低下、親の育児不安への対応及び虐待の防止、並びに地域における子育て支援対策として、武蔵野市から電話相談事業を受託しています。

※相談受付時間

日曜、祝日及び年末年始を除く毎日、平日は午後 5 時から午後 10 時まで、
土曜日は午前 8 時半から午後 10 時まで（平日の日中は武蔵野市で対応）

	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
相談件数	107 件	132 件	97 件

◆ショートステイ

家庭の子育て機能が低下するなか、地域における子育て支援として、武蔵野市から武蔵野市子育てショートステイ事業を受託しています。コロナ禍においては、緊急を要するケースのみの受入れとなりました。

※ショートステイ受入れ内容

- ・市内に住民票がある 2 歳から小学 6 年生までが対象
- ・利用事由は、死亡、行方不明、病気、出産、介護、冠婚葬祭、出張、育児不安、育児疲れ等
- ・原則 7 泊以内で定員 3 人まで

	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
受入数	67 人	39 人	78 人

● 園行事

コロナ禍により行事は中止や縮小実施を余儀なくされましたが、代わりに花火大会やケーキバイキング等のイベントを実施し、楽しく豊かな生活を送りました。

行事名	実施月日	対 象	他参加者および支援者
交 流 遠 足	中止	全児童	
海 水 浴	中止	全児童	
あ き ま つ り (シミュレーション)	10月17日	全児童	
七 五 三	11月30日	3歳女児1人 5歳男児7人	保護者、ボランティア
も ち つ き	居室ごと	全児童	
ク リ ス マ ス	12月24日	全児童	
初 詣	1月1日	在園児	
正 月 外 出	1月1日、2日	在園児	
雪 遊 び 外 泊	中止	年長・年中児	
		小学生	



園内で行ったあきまつり



豆まきで鬼を退治

● 寄付金及び寄贈品

赤十字子供の家は様々な方からご寄付やご寄贈品をいただいています。
皆さまの善意は事業運営に活用させていただきました。

寄付金 68 件 3,401 千円
寄贈品 113 件 657 千円 計 4,058 千円

看護師養成

● 看護師養成の概況

学校法人日本赤十字学園は、日本赤十字看護大学を設置し、看護師になるために国が定めた科目のほかに、赤十字について理解する「赤十字概論」、災害医療について学ぶ「災害看護論」、救護訓練等、赤十字の特色ある教育を行っています。また、日本赤十字社が設置する幹部看護師研修センターは、将来の幹部看護師等として活躍する人材を育成するため、看護職を対象とした各研修を行っています。

東京都支部は、臨床看護や訪問看護等の地域医療のほか、赤十字の人道の理念のもと、国内外の被災地や紛争地域で活躍できる赤十字看護師の養成を支援しています。

● 看護大学の支部奨学生への助成

都内の赤十字医療施設に将来就職する看護師の確保のために、日本赤十字社看護大学の学生の一部を奨学生と位置付けて、1人あたり年額60万円の授業料の助成を行っています。令和3年度は24人の学生が、助成金の交付を受けました。

	武蔵野赤十字病院	大森赤十字病院	東京かつしか赤十字 母子医療センター	合 計
委託・奨学生数	14 人	7 人	3 人	24 人

● 幹部看護師の養成

日本赤十字社幹部看護師研修センターでの各研修コースを受講する、都内の赤十字医療施設に在籍する人材の推薦を行っています。令和3年度は、10人の看護師が研修を修了しました。

	武蔵野赤十字病院	大森赤十字病院	東京かつしか赤十字 母子医療センター	合 計
修了者数	6 人	4 人	0 人	10 人

救護や看護に関する専門的な知識・技術に特化した研修の他に、管内の支部・施設での一般的な業務遂行能力の向上を目的として、基礎的かつ普遍的な内容の能力開発研修も実施しています。

● 東京都支部主催研修（第2ブロック合同開催を含む）

研修名称	開催日	参加者数	目的
目標管理・タイムマネジメント研修	6月8日	35人	組織目標に沿った実践的な目標管理等を習得する
人事・労務管理研修	6月29日	46人	労働基準法等の基礎的な知識を習得する
会計・財務研修	9月28日	39人	経理会計業務に必要な基礎的な知識を習得する
OJT研修	12月1日	29人	人材育成に必要な意図的・計画的・継続的な指導法等を習得する
達成力強化研修	7月20日	28人	自らが主体となって成果を出すための物事のとりえ方を学ぶ
説得・交渉力研修	12月13日	28人	どんな相手でもわかりやすく論理的に伝える伝え方を習得し、共感の得られる表現や話し方の向上を目指す
問題発見・解決力強化研修	令和4年度に延期	—	業務内の問題に対し真因を整理し、問題の構造を理解することで、解決への基本的な流れを学び自組織における課題解決、業務改善を目指す
新任課長級職員研修	6月8日～6月10日	13人（東京） [第2ブロック：90人]	管理職としてのマネジメント、人材育成に必要な能力向上を図る
	6月30日～7月2日		
新任係長級職員研修	5月12日～5月13日	24人（東京） [第2ブロック：132人]	係長職として必要な業務推進能力と問題解決能力、部下への指導力を身につける
	6月3日～6月4日		
	6月22日～6月23日		
既任課長級研修	11月15日～16日	15人	管理者として問題発見及び解決能力並びに組織運営・人材育成に関する知識を養い、管理能力の向上を図る
既任係長級研修	11月24日	45人	中間管理者として部下の指導と仕事のすめ方についての能力を養成する

※コロナ禍により一部オンライン形式で開催しました。

● 本社主催研修等

新規採用職員研修や幹部職員養成研修といった階層別の研修をはじめ、国際救援・開発協力に参加するための専門研修等、様々な研修に参加することで、赤十字の使命である人道的任務を達成するために求められる幅広い知識やスキルを習得しています。



職場外研修で他施設で働く職員と意見交換を行う

Council • Officer

評議員会は、支部長・副支部長や監査委員らの役員や代議員の選出にあたるほか、支部の重要な業務について審議する機関です。評議員会のほかにも評議員懇談会を設置し、事業の適正な運営を期しています。各評議員の任期は3年です。

地 区	氏 名	地 区	氏 名	地 区	氏 名
千代田区	樋口 高顕	渋谷区	窪田 久子	三鷹市	河村 孝
〃	井田 洋二	〃	富澤 洋	〃	中舘 文子
中央区	安西 暉之	中野区	加藤 洋右	青梅市	浜中 啓一
〃	渋井 賢太郎	〃	松延 元子	府中市	高野 律雄
港区	今野 由理子	杉並区	田中 良	〃	志水 清隆
〃	柴山 義光	〃	高 武征	昭島市	濱田 信子
新宿区	浅見 幹夫	〃	矢崎 芳子	調布市	長友 貴樹
〃	桑原 公平	豊島区	高野 之夫	〃	田邊 美春
文京区	鳥海 益恵	〃	片桐 昌英	町田市	石阪 丈一
〃	茅島 栄子	北区	小野田 さち子	〃	戸塚 正人
台東区	服部 征夫	〃	正木 好江	小金井市	西岡 真一郎
〃	小幡 拓也	〃	鈴木 將雄	小平市	小林 洋子
墨田区	野原 健治	荒川区	西川 太一郎	日野市	大坪 冬彦
〃	松本 紀良	〃	木内 輝男	東村山市	畠山 香壽恵

地 区	氏 名	地 区	氏 名	地 区	氏 名
江東区	菅澤 運一	板橋区	坂本 健	国分寺市	井澤 邦夫
〃	渡邊 恵司	〃	平塚 幸雄	国立市	永見 理夫
品川区	丹治 勝重	〃	山本 照子	福生市	加藤 育男
〃	関 召一	練馬区	前川 耀男	狛江市	松原 俊雄
〃	金子 正秀	〃	浅沼 敏幸	東大和市	鈴木 セツ子
目黒区	青木 英二	〃	加藤 政春	清瀬市	小寺 茂
〃	五十嵐 正夫	足立区	吉田 忠司	東久留米市	富田 竜馬
大田区	松原 忠義	〃	久米 浩一	武蔵村山市	山崎 泰大
〃	鳴島 繁蔵	〃	羽住 奎	多摩市	阿部 裕行
〃	鈴木 英明	葛飾区	大谷 隆興	稲城市	高橋 勝浩
〃	松原 茂登樹	〃	(欠 員)	羽村市	橋本 弘山
〃	中島 寿美	〃	(欠 員)	あきる野市	田中 トシ子
〃	大芦 重雄	江戸川区	加藤 モモ子	西東京市	細田 修克
世田谷区	保坂 展人	八王子市	小平 芳子	〃	清水 文子
〃	田瀬 文江	〃	田倉 光代	西多摩	稲見 徹
〃	一杉 和子	立川市	村山 正道	大島	川島 つねみ
〃	黒田 眞喜子	〃	(欠 員)	三宅	田代 則史
〃	鈴木 照枝	武蔵野市	松下 玲子	八丈	池野 大介
〃	栗田 幸子	〃	松井 浩子	小笠原	島田 律子

[支部長選出評議員 (定員15人)]

関係機関	氏 名	関係機関	氏 名
東京都福祉保健局	中村 倫治	赤十字奉仕団	(欠員)
特別区長会	近藤 やよい	青少年赤十字	藤井 大輔
東京都市長会	橋本 弘山	紺綬褒章受章者	伊藤 徳彦
東京都町村会	杉浦 裕之	東京都総務局危機管理監	原田 智総
東京商工会議所	小林 治彦	東京都社会福祉協議会	横山 宏
日本放送協会	中村 奈穂子	東京都共同募金会	加納 高仁
日本民間放送連盟	武井 忠司	東京青年会議所	山本 健太
本社理事	高野 律雄		

[評議員懇談会委員]

氏 名	日本赤十字社役職	公職等
鴨下 尚子	顧問、東京都日赤紺綬有功会顧問、(前)調布市赤十字奉仕団委員長	
栢雲 勲子	監査員、赤十字奉仕団東京都支部委員会 名誉委員 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会会長	
長谷川 光延	顧問、(元)赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長	(元)目黒区議会議長
瀬戸川 睦人	監査員、代議員、東京都日赤紺綬有功会会長	
高野 律雄	理事、代議員、地区長、支部長選出・地区長選出評議員	府中市長
服部 征夫	代議員、地区長、地区選出評議員、台東区赤十字奉仕団委員長	台東区長
小川 忠彦	代議員、全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会顧問、東京都青少年赤十字賛助奉仕団顧問、東京都日赤紺綬有功会副会長	
伊藤 徳彦	代議員、支部長選出評議員、東京都日赤紺綬有功会顧問、紺綬褒章受章代表者	(元)昭島市長
萩原 重睦	代議員、東京都日赤紺綬有功会副会長	
小嶋 淑子	代議員、東京都日赤紺綬有功会副会長	
嶋田 慶三	代議員、東京都日赤紺綬有功会相談役	
八木 幸子	代議員、八王子市赤十字奉仕団顧問	
阿美 澄枝	代議員、赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長、小金井市赤十字奉仕団委員長	
杉浦 裕之	代議員、支部長選出評議員、分区長	東京都町村会会長、 瑞穂町長
竹之内 勉	代議員、新宿大通商店街振興組合理事長	

● 事業報告

[評議員会の開催]

コロナ禍のため文書審議としました。

	開催日	議 事
第1回	令和 3 年 6 月	・評議員、役員及び代議員の異動報告について ・職員の人事異動報告について ・役員、代議員の選出について ・令和 2 年度事業報告について ・令和 2 年度一般会計、医療施設特別会計及び社会福祉施設特別会計決算について
第2回	令和 4 年 2 月	・評議員、役員及び代議員の異動報告について ・令和 3 年度事業報告(中間報告)について ・代議員の選出について ・令和 4 年度事業計画(案)について ・令和 4 年度一般会計、医療施設特別会計及び社会福祉施設特別会計予算(案)について

[評議員懇談会の開催]

コロナ禍のため開催を見送りました。

(1) 赤十字について

赤十字は、国籍、人種、宗教、敵味方の区別なく、災害の被災者や紛争犠牲者に対して人道的支援を行う世界最大の人道機関です。そのネットワークは、192の国と地域に広がっており、世界に存在するほとんどの国で赤十字が活動しています。

ア 3つの標章の意味

[保護標章]

紛争地帯で傷ついた人々と、その人々を救護する赤十字関係者や施設、軍の衛生部隊等を「保護」するためのマークです。赤十字マークを掲げている病院や救護員等を攻撃することは禁止されています。

[表示標章]

赤十字機関に所属していることを示すための「表示」のマークとして使用されることもあります。



イ 赤十字の組織としくみ

[赤十字国際委員会 (ICRC)]

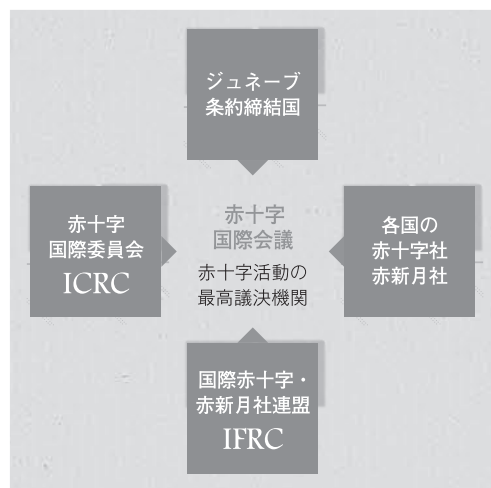
武力紛争およびその他暴力の伴う事態によって犠牲を強いられる人々の生命と尊厳を保護し、必要な援助を提供します。

[国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC)]

192の赤十字社、赤新月社の連合体。各国での活動を支援、推進し、災害時に国際的な活動の調整を行います。

[各国の赤十字社、赤新月社]

紛争や災害時の傷病者の救護活動、平時における医療・保健、血液事業、青少年の育成等の人道的な活動を行います。



ウ 国際赤十字・赤新月社運動の基本原則

1965 年（昭和 40 年）にウィーンで開催された第 20 回赤十字国際会議で、赤十字の活動の基礎となる「赤十字基本原則」が決議され、宣言されました。

[人道（Humanity）]

国際赤十字・赤新月運動は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力します。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにあります。赤十字・赤新月はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長します。

[公平（Impartiality）]

赤十字・赤新月は国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別もしません。赤十字・赤新月は、ただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、最も急を要する困苦をまっさきに取り扱います。

[中立（Neutrality）]

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しません。

[独立（Independence）]

赤十字・赤新月は独立しています。各国赤十字社・赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従いますが、常に赤十字・赤新月の基本原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければなりません。

[奉仕（Voluntary Service）]

赤十字・赤新月は、利益を求めない奉仕的救護組織です。

[単一（Unity）]

いかなる国にもただ一つの赤十字社・赤新月社しかありえません。赤十字社・赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければなりません。

[世界性（Universality）]

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社・赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持ちます。

(2) 世界の赤十字社・赤新月社一覧

承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年
1	ベルギー	1864	48	アイスランド	1925	95	サウジアラビア*	1963	142	スリナム	1986
2	イタリア	1864	49	エルサルバドル	1925	96	セネガル	1963	143	ジブチ*	1986
3	スウェーデン	1865	50	カナダ	1927	97	タンザニア	1963	144	グレナダ	1987
4	ノルウェー	1865	51	ドミニカ共和国	1927	98	トリニダードトバゴ	1963	145	チャド	1988
5	スイス	1866	52	オーストラリア	1927	99	ブルンジ	1963	146	モザンビーク	1988
6	オーストリア	1867	53	インド	1929	100	ベナン	1963	147	ドミニカ国	1989
7	トルコ*	1868	54	ニュージーランド	1932	101	マダガスカル	1963	148	セントビンセント及び グレナディーン諸島	1989
8	オランダ	1868	55	イラク*	1934	102	ネパール	1964			
9	英国	1870	56	ニカラグア	1934	103	ジャマイカ	1964	149	ソロモン諸島	1991
10	デンマーク	1876	57	ハイチ	1935	104	ウガンダ	1965	150	セيشェル	1992
11	ルーマニア	1876	58	エチオピア	1935	105	ニジェール	1965	151	セントクリストファー・ネイビス	1992
12	ギリシャ	1877	59	ホンジュラス	1938	106	ケニア	1966	152	アンティグア・バーブーダ	1992
13	ペルー	1880	60	ミャンマー	1939	107	ザンビア	1966	153	ナミビア	1993
14	アルゼンチン	1882	61	アイルランド	1939	108	マリ	1967	154	スロバキア	1993
15	ハンガリー	1882	62	リヒテンシュタイン	1945	109	クウェート*	1968	155	チェコ	1993
16	アメリカ	1882	63	シリア*	1946	110	ガイアナ	1968	156	スロベニア	1993
17	ブルガリア	1885	64	レバノン	1947	111	ソマリア*	1969	157	クロアチア	1993
18	ポルトガル	1887	65	フィリピン	1947	112	ボツワナ	1970	158	ウクライナ	1993
19	日本	1887	66	モナコ	1948	113	マラウイ	1970	159	バヌアツ	1993
20	スペイン	1893	67	パキスタン*	1948	114	レソト	1971	160	マルタ	1993
21	ベネズエラ	1896	68	ヨルダン*	1948	115	バーレーン*	1972	161	アンドラ	1994
22	ウルグアイ	1900	69	インドネシア	1950	116	モーリタニア*	1973	162	赤道ギニア	1994
23	南アフリカ	1900	70	サンマリノ	1950	117	シンガポール	1973	163	トルクメニスタン*	1995
24	フランス	1907	71	スリランカ	1952	118	バングラデシュ*	1973	164	ウズベキスタン*	1995
25	チリ	1909	72	ドイツ	1952	119	フィジー	1973	165	アルメニア	1995
26	キューバ	1909	73	アフガニスタン*	1954	120	中央アフリカ	1973	166	アゼルバイジャン*	1995
27	メキシコ	1912	74	大韓民国	1955	121	ガンビア	1974	167	ベラルーシ	1995
28	中国	1912	75	朝鮮民主主義人民共和国	1956	122	コンゴ共和国	1976	168	マケドニア旧ユーゴスラビア	1995
29	ブラジル	1912	76	ラオス	1957	123	バハマ	1976	169	ブルネイ*	1996
30	ルクセンブルク	1914	77	チュニジア*	1957	124	バブアニューギニア	1977	170	キルギスタン*	1997
31	ポーランド	1919	78	スーダン*	1957	125	モーリシャス	1977	171	キリバス	1997
32	フィンランド	1920	79	ベトナム	1957	126	スワジランド	1979	172	パラオ	1997
33	タイ	1920	80	モロッコ*	1958	127	トンガ	1981	173	タジキスタン*	1997
34	ロシア	1921	81	リビア*	1958	128	カタール*	1981	174	グルジア	1997
35	コスタリカ	1922	82	ガーナ	1959	129	イエメン*	1982	175	ガボン	1999
36	コロンビア	1922	83	リベリア	1959	130	ルワンダ	1982	176	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2001
37	パラグアイ	1922	84	モンゴル	1959	131	ジンバブエ	1983	177	モルドバ	2001
38	エストニア	1922	85	カンボジア	1960	132	ベリーズ	1984	178	クック諸島	2002
39	ボリビア	1923	86	ナイジェリア	1961	133	サモア	1984	179	カザフスタン*	2003
40	ラトビア	1923	87	トーゴ	1961	134	バルバドス	1984	180	ミクロネシア	2003
41	エクアドル	1923	88	シエラレオネ	1962	135	カーボベルデ	1985	181	コモロ連合*	2005
42	アルバニア	1923	89	ブルキナファソ	1962	136	サントメ・プリンシペ	1985	182	東ティモール	2005
43	グアテマラ	1923	90	コンゴ民主共和国	1963	137	ギニアビサウ	1986	183	パレスチナ*	2006
44	リトアニア	1923	91	マレーシア*	1963	138	アラブ首長国連邦*	1986	184	イスラエル**	2006
45	エジプト*	1924	92	アルジェリア*	1963	139	セントルシア	1986	185	セルビア	2006
46	パナマ	1924	93	カメルーン	1963	140	ギニア	1986	186	モンテネグロ	2006
47	イラン*	1924	94	コートジボワール	1963	141	アンゴラ	1986	187	モルディブ*	2011
国名の後に標の無いものは赤十字社 *は赤新月社 **は赤盾社									188	キプロス	2012
									189	南スーダン	2013
									190	ツバル	2015
									191	マーシャル諸島	2017
									192	ブータン王国	2019

(3) 都内赤十字施設一覧

		郵便番号	住所	電話番号	設置年月
本社		105-8521	港区芝大門1-1-3	03(3438)1311	明治10年5月
東京都支部		169-8540	新宿区大久保1-2-15	03(5273)6741	明治20年10月
医療施設	日本赤十字社医療センター*	150-8935	渋谷区広尾4-1-22	03(3400)1311	明治19年11月
	武蔵野赤十字病院	180-8610	武蔵野市境南町1-26-1	0422(32)3111	昭和24年11月
	大森赤十字病院	143-8527	大田区中央4-30-1	03(3775)3111	昭和28年7月
	東京かつしか赤十字母子医療センター	125-0051	葛飾区新宿3-7-1	03(5876)3511	昭和28年2月
血液センター	関東甲信越ブロック血液センター*	135-8639	江東区辰巳2-1-67	03(5534)7666	平成24年4月
	東京都赤十字血液センター	162-8639	新宿区若松町12-2	03(5272)3511	昭和39年8月
	立川事業所	190-0014	立川市緑町3256	042(529)0401	昭和45年5月
	武蔵野出張所	180-0023	武蔵野市境南町1-26-1	0422(32)1100	平成13年10月
	葛飾事業所	125-0061	葛飾区亀有5-14-15	03(5682)2802	昭和42年6月
	大田出張所	144-0055	大田区仲六郷3-30-1	03(3733)3315	昭和43年6月
	辰巳供給出張所	135-8639	江東区辰巳2-1-67	03(5534)7662	平成27年12月
	献血ルーム feel	131-0045	墨田区押上1-1-2スカイツリータウン・ソラマチ10階	03(6456)1972	平成25年4月
	新宿東口献血ルーム	160-0022	新宿区新宿3-17-5T&TⅢビル5階	03(6380)0654	令和3年12月
	新宿西口献血ルーム	163-0023	新宿区西新宿1丁目西口地下街1号	03(3348)1211	昭和60年4月
	日赤都庁献血ルーム	160-0023	新宿区西新宿2-8-1都議会議事堂地下1階	03(3343)2231	平成3年4月
	ハチ公前献血ルーム	150-0043	渋谷区道玄坂2-3-2大外ビル6階	03(3476)2880	平成20年12月
	有楽町献血ルーム	100-0006	千代田区有楽町2-10-1東京交通会館6階	03(3213)8666	平成3年12月
	献血ルーム 池袋い〜すと	170-0013	豊島区東池袋1-1-4 ヲカセ・セントラルビル8階	03(3988)9000	平成4年7月
	献血ルーム 池袋ぶらっと	170-0013	豊島区東池袋1-12-8フジキビル3階	03(5950)3000	平成11年7月
	献血ルーム 吉祥寺タキオン	180-0004	武蔵野市吉祥寺本町1-15-2ダイヤハロービル8階	0422(21)9000	昭和62年11月
	akiba:F 献血ルーム	101-0021	千代田区外神田1-16-9朝風二号館ビル5階	03(3251)8201	平成21年10月
	立川献血ルーム	190-0012	立川市曙町2-7-17丸井・井上共同ビル地下1階	042(527)1140	昭和57年9月
	まちだ献血ルーム comfy	194-0013	町田市原町田6-3-3町映ビル7階	042(732)8494	平成6年9月
社会福祉施設	日本赤十字社総合福祉センター*	150-0012	渋谷区広尾4-1-23	03(6861)4800	平成24年4月
	日本赤十字社医療センター附属乳児院*	150-0012	渋谷区広尾4-1-1	03(3400)1311	昭和23年11月
	武蔵野赤十字保育園	180-0006	武蔵野市中町3-25-7	0422(52)3298	昭和26年9月
	赤十字子供の家	180-0023	武蔵野市境南町1-26-27	0422(31)8283	昭和25年4月
	エトワール・フィユ山崎	180-0014	武蔵野市関前4-8-33		平成14年2月
	さくら	180-0023	武蔵野市境南町5-2-26		平成28年2月
看護教育施設	日本赤十字社幹部看護師研修センター*	150-0012	渋谷区広尾4-1-3	03(3499)1709	平成15年4月
	日本赤十字社助産師学校*	150-8935	渋谷区広尾4-1-3	03(3400)1311	昭和26年4月
	日本赤十字看護大学**	150-0012	渋谷区広尾4-1-3	03(3409)0875	昭和61年4月

* 本社直轄施設

** 学校法人 日本赤十字学園施設

(4) 東京都支部幹部職員

		役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
東京都支部		事務局長	中川原 米俊	事務局次長	宮崎 明浩	総務部長	(兼) 宮崎 明浩
						振興部長	松田 茂雄
						事業部長	(兼)宮崎 明浩
医療施設	武蔵野赤十字病院	院長	泉 並木	副院長	黒崎 雅之	事務部長	杉田 秀文
				副院長	足利 貴志		
				副院長	玉置 正史	看護部長	奥田 悦子
	大森赤十字病院	院長	中瀬 浩史	副院長	後藤 亨	事務部長	倉辻 智
				副院長	市川 敬太		
				副院長	北里 博仁	看護部長	天舛 成子
	東京かつしか赤十字 母子医療センター	院長	三石 知左子	副院長	欠	事務部長	太田 博
						看護部長	川岸 真由美
	東京都赤十字血液センター		所長	加藤 恒生	副所長	磯 則和	事務部長
事業推進一部長							旗持 俊洋
副所長					石丸 文彦	事業推進二部長	國井 典子
						センター付部長	澤村 佳宏
副所長					(兼)井上 慎吾	立川事業所長	乙訓 高一
						葛飾事業所長	末吉 和夫
社 社 施 施 会 会 設 設 福 福	武蔵野赤十字保育園	園長	新田 明美				
	赤十字子供の家	園長	寺田 政彦				

(5) 東京都支部施設職員数

		職員数
東京都支部		55人
医療施設	武蔵野赤十字病院	1,498人
	大森赤十字病院	657人
	東京かつしか赤十字母子医療センター	250人
	小計	2,405人
東京都赤十字血液センター		501人
社会福祉施設	武蔵野赤十字保育園	40人
	赤十字子供の家	37人
	小計	77人
合計		3,038人

(6) 東京都支部事務局職員

